

令和2年第6回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

令和2年12月11日（金曜日）

議事日程第2号

令和2年12月11日（金曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平澤 惣一郎 君	2番	東野 恭行 君
3番	山本 剛 君	4番	吉川 慶一 君
5番	中村 実 君	6番	滝川 正義 君
7番	佐藤 孝 君	8番	新保 峰孝 君
9番	田原 実 君	10番	保坂 悟 君
11番	笠原 幸江 君	12番	斉木 勇 君
13番	高澤 公 君	15番	田中 立一 君
16番	古川 昇 君	17番	渡辺 重雄 君
18番	松尾 徹郎 君	19番	五十嵐 健一郎 君
20番	吉岡 静夫 君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市 長 米田 徹 君 副 市 長 藤田 年明 君

総務部長	五十嵐 久英君	市民部長	渡辺 成剛君
産業部長	見辺 太君	総務課長	渡辺 忍君
企画定住課長	渡辺 孝志君	財政課長	山口 和美君
青海事務所長	猪股 和之君	市民課長	川合 三喜八君
環境生活課長	高野 一夫君	福祉事務所長	嶋田 猛君
健康増進課長	池田 隆君	商工観光課長	大嶋 利幸君
農林水産課長	猪又 悦朗君	建設課長	五十嵐 博文君
復興推進課長	斉藤 喜代志君	消防長	小林 正広君
教育長	井川 賢一君	教育次長	磯野 茂君
教育委員会子ども課長	磯野 豊君	教育委員会子ども教育課長	富永 浩文君
教育委員会生涯学習課長		教育委員会文化振興課長	
中央公民館長兼務	穂 莉 真君	市民会館長兼務	伊 藤 章一郎君
市民図書館長兼務			

〈事務局出席職員〉

局	長	松 木 靖君	次	長	松 村 伸一君
係	長	上 野 一樹君			

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、1番、平澤惣一郎議員、18番、松尾徹郎議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は15人ですが、議事の都合により、本日5人、14日5人、15日5人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分です。所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡明に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。初めての一般質問以来、今回で70回目の一般質問となります。よろしく申し上げます。

以下、通告書に基づき質問をします。

質問1、新型コロナウイルス対応、看護師確保等、糸魚川地域医療の現状と課題について。

(1) 新型コロナウイルス対応で医療体制が崩壊してしまわないよう、市が中心となって対策を取るべきと、これまでの一般質問でも取り上げていますが、再度、以下の点について伺います。

- ① 予防策と検査体制について。
- ② ワクチン確保について。
- ③ 重症化対策について。

(2) 糸魚川市の地域医療体制確保の施策については、これまでも取り上げていますが、その効果はどうであったか、この先の対応はどうなるか、伺います。なお、施策の詳細は、通告書に記してあるとおりです。

(3) 13年前、姫川病院が突然閉院し、糸魚川の医療現場は混乱し、市民の命が危機にさらされました。以来、唯一の基幹病院である厚生連糸魚川総合病院を維持することも一つの目的として、市民が医療について理解を深める地域医療フォーラムを提案し、毎年開催してきましたが、その効果はどうであったか伺います。

(4) 地域医療体制の最大の課題である看護師確保、看護師育成の強化策についてはこれまでの一般質問でも取り上げていますが、再度、以下の点について、伺います。

- ① 看護師の市内就職と看護師が働きやすい職場環境整備について。
- ② 家族で考える糸魚川の医療体制と、看護職を目指す子供たちの芽生えについて。
- ③ 看護職を目指す中高生の育成について。
- ④ 看護師育成の専門機関の創設について。
- ⑤ アニメを使った看護師育成テキスト「ナースへの道」作成とその活用について。

質問2、「糸魚川のシーフードは最高！」ブランド魚、深海魚、漁港の活用、新しい情報発信で稼ぐ「さかなのまち糸魚川再生」について。

- (1) 市内漁港の現状、漁協、漁師の数、水揚げの状況、市内漁場の特性とエリアごとの魚種、近隣観光施設との連携について伺います。
- (2) 糸魚川で捕れる魚は鮮度・状態が良くトップブランドとなる品質ですが、一つの魚種の量の確保が難しいと聞いています。ただ、新しい技術や販路の工夫で、糸魚川の魚のよさ、おいしさ、珍しさを情報化して「さかなのまち糸魚川」をアピールすべきと思いますが、いかがですか伺います。
- (3) 「糸魚川のシーフードは最高！」と思える魚食文化の醸成については、家庭や教育現場での実食が必要です。糸魚川の魚をおいしく食べて習慣化する、幼児期、小中学校、高校、市民に向けてのそれぞれの取組について伺います。
- (4) 糸魚川の魚を使った加工品の開発と販売、魚を使った疲労回復長寿命メニューの市民への周知と定着の取組を進めてはいかがでしょうか、伺います。
- (5) 市内漁港への釣り人の侵入による被害と対策の状況について伺います。
- (6) 長野県の皆さん、子供たちから見て、糸魚川が憧れの地となるような、これからの海、海岸、漁港の活用について伺います。
- (7) 糸魚川の漁師ユーチューバーが注目を浴びていますが、ご存じでしょうか。「さかなのまち糸魚川」の新しい情報発信として、また魚で稼ぐツールとして活用すべきと考えます。予算をつけて支援してはいかがですか、伺います。

質問3、「駅開き、まち開き、谷開き」、えちご押上ひすい海岸駅開業をきっかけとする押上、西海、海谷溪谷をつなぐ地域連携エリアの複合的な魅力づくりについて。

- (1) 新駅開業事業のスケジュールと、それ以降の駅周辺のにぎわいづくり及び定住促進について伺います。
- (2) アニメ「宝石の国」のひすいのキャラクターの活用、ヒスイ海岸の看板のライトアップ、ヒスイ海岸護岸のイルミネーション、バス対応駐車場など、観光誘客に向けた海岸の利用と環境整備について伺います。
- (3) 駅近くに駄菓子屋さん、そば屋さん、弁当屋さん、銭湯があればよいと思いますがいかがですか、伺います。
- (4) 海川上流の海谷溪谷から河口の押上海岸までの地域連携エリアの豊かな自然・文化を活用する魅力向上について伺います。自然の一例を挙げれば、映画が撮影された海谷溪谷ジオサイトの景観のすばらしさは言うまでもなく、また文化資源の一例を挙げれば、水保観音堂の木造十一面観音立像は元国宝で、現在国指定重要文化財です。
- (5) 海谷溪谷から押上海岸までの釣りやキャンプによる誘客の取組について伺います。
- (6) 県立糸魚川高校の「高校の魅力化」のプログラムである糸高「アイ・クエスト」「探究活動」が展開される、地域連携エリアの複合的な魅力づくりについて伺います。
- (7) 出身者相馬御風を縁とする、早稲田大学の学生と一緒に進める、地域連携エリアの複合的な魅力づくりについて伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。

〈午前10時07分 休憩〉

〈午前10時08分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

○9番（田原 実君）

事務局のご指導により、もう一度読み上げるということですので、再度、通告書を読み上げます。

質問1の（2）のところでございます。細かいところです。

- ① 休日夜間救急医療体制確保について。
- ② 市内産婦人科確保について。
- ③ 総合診療医育成支援について。
- ④ 医師確保対策、医師研修費助成について。
- ⑤ 医師看護職等修学資金貸与事業について。
- ⑥ 認定看護師等資格取得費用助成について。
- ⑦ 高度医療施設設備等整備について。
- ⑧ 18歳までの子ども医療費助成について。
- ⑨ ひとり親家庭等医療費助成について。
- ⑩ インフルエンザ予防接種費用助成について。
- ⑪ 不妊症、不育症治療費助成について。
- ⑫ 山間僻地診療所運営の継続について。
- ⑬ 在宅医療、訪問看護の促進と支援について。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、引き続き保健所や医師会、糸魚川総合病院と連携して検査・医療体制を整備し、今後始まる新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保にも努めてまいります。

2点目につきましては、今後も糸魚川総合病院をはじめ、医師会など関係機関と協力をしながら、僻地医療を含む地域医療や救急医療体制の維持、医師・看護師等の医療技術確保を図ってまいります。

また、各種助成制度の拡充により、市民の経済的負担軽減に効果があったと考えております。

3点目につきましては、地域医療における課題やその時々における医療問題等について、市民と

共有できたものと捉えております。

4点目につきましては、地域医療体制を維持する上で大変重要な課題として捉えており、医療従事者の働きやすい職場環境整備をはじめ、修学資金貸与制度などの人材確保やキャリア教育による人材育成に取り組んでおります。

2番目の1点目につきましては、市内には8つの漁港、2つの漁業協同組合があり、元年では組合員数は274名、水揚げ量は約2,750トンと把握いたしております。沿岸から急峻な地形で、漁場が近いことから多くの魚種に恵まれ、観光資源として活用されております。

2点目につきましては、漁業協同組合では最新技術の導入や加工に取り組んでおり、今後も漁業関係者と連携して、情報発信に努めてまいります。

3点目と4点目につきましては、保育園、学校など、ジオ給食や公民館事業での地魚教室などを実施しており、引き続きふるさとの食、魚を身近に感じられる取組を進めてまいります。

5点目につきましては、注意看板や柵の増設など、漁業関係者と協力をし、対策に取り組んでおります。

6点目につきましては、海のレジャーをはじめ海産物やロケーションなど、海の魅力をPRし、引き続き誘客を進めてまいりたいと考えております。

7点目につきましては、今の時代ならではの情報発信の手法で大変効果的であると考えており、現在、支援いたしております。

3番目の1点目につきましては、来年3月の開業を目指して整備を進めており、押上区の皆様と開業イベントや新駅開業後の地域づくりについて話し合いを進めているところであります。

2点目につきましては、鉄道の利用促進とともにヒスイ海岸での石拾いなど観光誘客を進めていく必要があると考えており、看板や駐車場の整備などを検討いたしております。

3点目につきましては、駅周辺に商業施設があることにより、より集客力や利便性が高まるものと考えております。

4点目につきましては、海川流域には特徴ある景観や歴史のある資源が存在することから、その魅力をエリアとしてPRしていく必要があると考えております。

5点目につきましては、西海地区や押上区の取組と連携をしながらアクティビティなどの誘客に努めてまいります。

6点目と7点目につきましては、地域の意向を踏まえて対応してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それでは、地域医療の現状と課題について再質問します。

新型コロナウイルス対応について、まずは医療機関が機能するための予防策と検査体制、ワクチン確保について担当課で把握していることなど伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

各医療機関におきましては、医師、看護師をはじめ関係者が一丸となって感染防止策に取り組んでおります。

また、本議会におきましても病院における医療従事者確保のための環境整備でありますとか、経営状況を改善するための補正予算を計上させていただいたところであります。

一方、ワクチンの確保と費用負担につきましては、国が行い、実際の接種については市町村で行うということになりますけれども、まずは医療従事者、それから高齢者などが優先的に接種されるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、市民のための予防策と検査体制、ワクチン接種について担当課で把握してることなど伺います。

仮に、重症化した場合には、上越の病院での対応となりますが、最近の上越での感染に関する情報と、この先の対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

感染の予防には、マスクの着用でありますとか、手洗い、3密を避ける、こういう市民の意識・行動に根差した基本的な対策というのが、最も必要であるというふうに認識しております。

検査体制につきましては、診療、検査、医療機関として、指定を受けた身近な開業医におきましても、発熱等の症状がある場合は診療と検査を行う体制が整っております。

また、ワクチンの接種につきましては、国の情報を踏まえ、円滑な接種に向けた体制づくりを今進めておるところであります。

一方、最近の上越地域における感染の状況であります。11月27日に厚生連上越総合病院で医師の感染が確認され、救急医療だとか外来診療に大きな影響が出たということが報じられておりました。市内の医療機関、特に糸魚川総合病院が取り組む感染防止策については、情報共有しながら支援をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域医療の施策について伺います。

医師、看護師が不足し、休日・夜間救急医療や産婦人科確保に対応できないことが心配です。最新の情報と、この先の対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

医師、看護師確保につきましては、当市にとって最重要課題というふうに捉えております。今年度につきましては、コロナ禍ということもあって、活動の制約というのがありましたけども、関係機関と一緒に、富山大学、看護大学等への要望活動を行ってきたところであります。

また、糸魚川総合病院では、令和3年度も必要な看護師を配置いただき、現在の診療でありますとか入院体制については、維持されるものというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市からは、医師確保について、医療の確保について様々予算をつけていただき、感謝します。

ただ、この先、人口減が進み、仮に人口が4万人を割った場合でも、医師や診療科は確保できるのか心配です。富山大学からの医師派遣と糸魚川総合病院の研修医確保策による診療科の継続については、今後も医師や研修医が確保できますか。その見通しと、この先の対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今後、人口減少に伴い、医療需要の減少というのが予測されます。今、議員の指摘のとおり状況だと思えます。それによって医師派遣でありますとか、診療科目の維持に一定の影響が及ぶものというふうに心配をしております。市としましては、糸魚川総合病院と連携しながら、派遣医師の引上げだとか、診療科目の縮小が起こらないよう富山大学等へ働きかけを行ってまいります。

一方、県による地域医療構想の具体像、これが、今後近いうちに示されるものと考えており、糸魚川市の地域医療体制について、県の考えを確認しながら持続可能な医療を実現していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

医師・看護師等修学資金貸与事業や大学からの医師派遣のための事業の成果はどうか。数値として確認してありますか。今後も医師派遣につながることを確認してありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

専門診療医確保対策事業におきまして、富山大学から糖尿病の専門医1名を派遣いただき、寄附講座を行っていただいております。この事業につきましては、必要とする診療科目の医師を確実に確保できることから、今後も事業の継続に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、子供の医療についてです。18歳までの子ども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成、インフルエンザ接種助成、不妊症・不育症治療費助成について、この先の対応を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員ご承知のとおり、それぞれの事業におきましては、今まで段階的に拡充をしてきておりまして、県内でも手厚いほうだと思っております。子育て世代の経済的負担の軽減に寄与したものと捉えております。

しかしながら、さらなる拡充というところも課題だというふうに認識しておりまして、引き続き子育て世代の声を聴きながら財源確保も含めて必要な支援策を検討してまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、山間僻地での医療確保について、また、在宅医療、訪問看護の促進と支援について、この先の対応を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

山間部の医療としまして、根知、小滝、平岩診療所については、今後も無医地区解消のため糸魚川総合病院から医師を派遣いただき、継続したいというふうに考えております。

在宅医療、訪問看護につきましては、今後も必要とされる医療介護サービスであるというふうに認識しており、市として実情を把握しながら必要な方にサービスが行き届くよう今後も努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

在宅医療、訪問看護の需要が今後増えると思います。

一方、糸魚川の市域が広く、谷が深い地域特性から看護事業を効率的に行うことが難しいと聞きます。そのようなことから、きめ細かく利用者、家族に寄り添う訪問看護事業者が数多く必要と考えられます。そのためには、事業者への市の対応は差別なく問題のないようにしていただきたいのですが、担当課から現状を伺い、問題がないか確認したいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

おはようございます。

介護保険におけます訪問看護につきましては、主治医の指示や、また利用者の希望によりまして、事業者と主治医が密接な連携の下、サービスが提供されるものであります。広大な面積を有する本市におきましては、今後も在宅医療、訪問看護のニーズが高まることが予想はされます。これからも住み慣れた自宅で、医療や看護を必要とする市民の方々が、適切なサービスを受けられるよう市としてもしっかりと対応してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

医療フォーラムで、今年は8050問題を取り上げていただきました。私の3月の一般質問で、相談しやすい体制の構築、安心できる居場所づくりの運営と人材確保、当事者の経験を生かす仕組みづくりを関係者と連携して進めると答弁いただきました。その後の対応を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今年度になりまして、当事者のご家族から家族同士で集まり、悩みを話し合いたい。経験者として協力したいというような申出がありました。当事者による自主的な活動につながるというふうに期待をしておるところであります。

また、12月12日、明日ですけれども、ひきこもりをテーマとした精神保健福祉フォーラム、これ県の保健所が主催するわけですが、これにおきまして講演会后、講師を囲んで、今後の糸魚川地域における取組について懇談をしたいというふうに考えております。今後も当事者の自主性を尊重しながら支援をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございます。その方針を持って進めてください。

私は、医療フォーラムによって市民が医療の現状を理解することで、糸魚川の地域医療が確保され、持続されていくと考えますが、やはり心配なのは看護師不足です。糸魚川総合病院の介護施設の閉鎖の原因は、看護師不足と確認されています。この看護師不足を課題として市民と共有すべきではないですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

地域医療フォーラムにおきましては、地域医療の課題でありますとか、厳しい現状についてご報告をさせていただき、参加していただいた方からは共有できたものと考えております。

しかし、看護師不足が当市の地域医療を維持していく上で大きな課題となっておりますということをご存じない市民の方も多くおられるというふうを考えられ、これをより多くの市民の皆さんと共有をして、市ぐるみで取り組んでいかなければならないというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

医師の働き方改革が、間近に迫っています。医療機関においても様々なことが起きるでしょう。例えば医師の献身的な長時間労働、犠牲とも言える働きによって成り立ってきた救急医療、長時間の手術や外来対応などが、医師の時間外労働規制により成り立たなくなるおそれがあります。その中で糸魚川の地域医療は、どう確保されていくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

医師の働き方改革につきましては、2024年から制度が施行されることとなっております。人口と医療需要が減少する中で、県は地域医療構想の実現に向けた具体像を示すとしており、上越地域医療圏としても、それをベースに今後検討が行われるというふうと考えております。

当市としましては、糸魚川総合病院が唯一の基幹病院であり、地理的条件でありますとか交通条件などから、一定の医療については、当市内で完結する必要があるものと認識をしており、糸魚川総合病院と連携をし、必要な地域医療の確保に今後も努めてまいりたいというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

現状はそのとおりだと思います。

ただ、糸魚川市の5年先、10年先の医療ビジョンはありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

ご質問の医療ビジョンにつきましては、県レベルで地域医療構想が策定をされ、県内7つの医療圏域ごとに今現在、検討が進められておりますけれども、地域医療体制の維持、これにつきましては、安全・安心な生活のみならず、子育てでありますとか若者の定着などから、不可欠であるというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

医療のビジョンはあるかという質問なんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどの説明にもありました今現在、県レベルで地域医療構想が策定をされ、その具体化に向けて進められております。まずは、その地域医療構想をベースにしながら、糸魚川地域の医療体制については構築をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域医療のビジョンを描き、目的と目標を定め、戦略的に進める必要があります。でないと、市民の命を守ることが成り行き任せになってしまいます。できることしかできない、その現場の事情も分かりますが、その現実を変えていくことが、市長の役目ではないですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

地域医療は、非常に今危ういところにあると理解をいたしております。そういう中で、この医療に関しましては、ご承知のとおり一自治体でできるものと、できないものがございます。そういう中でその大きな課題については今、課長がご答弁申し上げたとおり県と連携しながら進めていかなく

てはいけない。また、今さらに大きい問題につきましましては、さらにそれを大きく捉えて北信越市長会の中で各自治体の市の皆様と、ほぼ100%に近い市の皆さんと今そういった問題に取り組んでもおります。そのように大きな問題、また、我々が解決すべき我々が対応できるような問題については、今取り組んでもおります。そのように今市民の皆様方が、一番安心・安全に暮らせるという環境づくりが大切かと思っております。その中で地域医療の占める割合というのは、非常に大きいものがございます。そういったところについては当然、私も先頭になって取り組んでまいります。医師確保、看護師確保については、その一番の大きな課題と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そのためには、医療人材の育成・確保が必要です。そして、そのためには教育の質を上げて、子供たちが医療の道を進んでいける学力をつけることも必要です。また、医療の知識に触れ、進路に目覚める場も必要です。なので、医療を家族で考えたり、看護職を目指す芽生えを作り、育て、看護師となっていていただく入り口として看護師育成のテキスト「ナースへの道」作成と活用をと、私は申し上げます。子供たちを全力で応援して、夢を現実に、そのガイドとなる環境をつくるのは、教育長の役目ではないですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

おはようございます。

お答えいたします。

看護師の確保は、今、市の状況から見て、本当に重要なことだというふうに思っています。

また一方で、他の専門職、例えば保育士ですとか介護職についてもやはり不足している実態、あるいは地域の企業、事業所においても人材が不足している状況にあるというふうに認識しています。このような中で、教育委員会としては子供たちが将来の進路をしっかりと見定めるための情報提供をしっかりとやる。それから、進路が決まったときには、その進路、夢の実現に向けてしっかりと支えていくという役割が重要になってくるんだろうというふうに思っています。

具体的な取組としましては、医療従事者を含む幅広い業種の皆さんから学校へ出向いて授業をしていただいたり、中学2年生については、インターンシップを5日間、それから、先般11月に実施しましたキャリアフェスティバルでは、多くの事業所からも参加いただいて、幅広い業種の皆さんから、子供たちとお話をさせていただく状況をつくっております。それから、医療従事者養成のための各種助成制度ももちろんございます。

こういったこともあって市内の高校から、医療系の学校への進学者は、ここ数年、30人から40人ほどおられるという実情なんですけども、その出口として糸魚川市が選ばれているかどうかという課題があるかと思えます。その夢の実現の舞台が、糸魚川市になるように地域が本当に夢のある地域であったり、職場環境が充実したり、そういったことが必要なのではないかと私は思い

ます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

教育長、ありがとうございました。

できれば医療人材育成の取組、環境の整備のステージをもう一つ上げたいところですよね。

それで私は、看護師育成の専門機関の創設は行政の役割ではないかと思っております。昨今の高校の教育改革やリモート等の情報技術によって、以前は無理と思われたことが、糸魚川でも実現可能なはずで、今できない理由を並べて、明日の医療をなくしてもいいのでしょうか。ぜひ取り組んでいきたいと思いますがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

医療系の専門機関の設置というご提案なんですけども、なかなか立地には簡単にいかない部分があるかと思えます。

ただ、ご提案にありましたとおり遠隔での授業ですとか、教育委員会のほうでも、例えば大学等との連携で、子供たちに授業等をする場を設けております。そういった機会を踏まえて、もう一歩進んだキャリア教育ができるように十分また検討してまいりたいと思えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

あまりネガティブなことを言うのは慎むべきかもしれませんが、正直、糸魚川の明日の医療は分らないです。もっと言えば、医療崩壊がいつ訪れるかという状況かもしれません。だからこそ、ここで生まれ育った子供たちが、医療の道を志し、医師、看護師として活躍する未来を思い描き、それを市も市民も全力で応援することで、明日の医療をつくりましょう。医療人材を地元で育てて、地元の病院で勤務していただく道筋をつくる。同時に、人口を増やし、持続可能な社会を実現することが、政治の責務、ここにいる私たちがなすべきことです。

市長、いま一度伺いますが、市長はこの先頭に立たれますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員が質問されたこととは一致しないかもしれませんが、我々はそういった事柄について、今進めておる状況であると思っております。

しかし、教育施設については、少子化の中において、これは医療機関の関係の教育現場といいましょうか、教育の施設については、非常に難しい状況だと、私は捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、「糸魚川のシーフードは最高」の再質問です。

資料とパネルを準備したのでご覧ください。

パネルの见えない方は、申し訳ありません。市内漁港の現状、漁業協同組合、漁師の数、水揚げの状況、市内漁場の特性とエリアごとの魚種、近隣観光施設の連携について、担当課から説明をいただきたいと思ひます。

また、12月から改正漁業法が施行されていますが、その影響や対応について、併せて担当課に伺ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

それでは、今ほどのご質問の件をお答えいたします。

市内の漁港につきましては、筒石、能生、鬼舞、浦本、大和川、姫川港、親不知、市振の8つの港。

また、漁業協同組合は、上越漁業協同組合と青海町漁業協同組合の2つであります。漁業協同組合の組合員数は、令和元年274名となっており、水揚げ量につきましては、約2,750トンということでございます。

漁場の特性につきましては、沿岸から急峻な地形であり、漁場が近いということから新鮮な魚介類、また、船の燃料等についても非常に有利な条件であるというふうに認識しております。

エリアごとの魚種でございますが、筒石はニギス、能生はベニズワイガニ、浦本はカレイ、親不知、市振はアジ類というような形で認識をしております。

観光施設との連携につきましては、マリンドリーム能生、また、親不知ピアパークの道の駅などで鮮魚の販売、また、お食事の提供ということで連携をしているところであります。

改正漁業法のことでございますが、こちらの法律の改正につきましては、いわゆる漁獲制限、漁獲量を制限する中で水産資源の保存、また適正管理を目指したものであると理解しております。

現在、当市の状況に置き換えますと、規制8種類の魚でございますが、そのうち当市の漁獲量で行きますと2割ということになります。大きく影響を受けるのが、アジ類ということで把握しております。

また、現在15種類の魚については検討中でありまして、こちらのほうが今後規制されますと、

今ほど申し上げた魚が、ほぼ対象になるということでございます。

市内の漁港では、主力魚種のブランド化に現在も取り組んでおります。ベニズワイガニ、ニギス、甘エビなどがございますが、豊漁による値崩れや未利用魚の加工事業などに取り組んでおります。そういったことは、この法律の改正によりまして、ますます重要性が高まってくるということでございます。今後も私ども行政も含めまして、漁業関係者と、また連携・協議してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

丁寧なご説明をいただきましてありがとうございます。

次に、ブランド魚と深海魚の活用について、改めて担当課に伺います。

先進地である島根県浜田市や静岡県沼津市の取組について、資料を取り寄せて担当課にお渡ししてあります。糸魚川の参考となる事例があれば、ご紹介ください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

資料ありがとうございます。

ブランド化、ブランドの魚介類につきましては、当市の場合、大きくは絶対的なベニズワイガニ、また、先ほどご説明ありましたが、エビ、また、タグつきの本ズワイなどの取組がされております。

また大きくは、今シーズンに入りましたけども、あんこうフェアに代表される冬の味覚の代表でありますアンコウというような取組が、地域において関係者一丸となって取り組まれているというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の主な魚は、糸魚川うまいもん会がブランド化に取り組むメギス、南蛮エビ、通称甘エビ、ベニズワイ、本ズワイ、カレイ、ブリ等様々、深海魚は、アンコウに幻魚、ヌタウナギもいいですね。

さて、魚の活用については、経済効果を出していくことが目的ですが、先進地の戦略はどうか。そして、糸魚川では今後どう進めますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

今ほど頂いた資料等々を私どものほうでも参考にさせていただいております。内容を見させてい

ただきますと、やはり取組については流通経路等も含めた地域の一体的な取組、また、特性・特産品の高付加価値化、それともう一つは、売り込むための一丸となった強力な情報発信と売り込みということでございます。一番大きなところは、やはり地域全体が一丸となってというふうに理解しておりますので、私どものほうも今後、先進地の取組、参考にしながら水産業、まず漁業協同組合としっかりと情報共有、連携強化に努めまして、取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

先進地の取組は、子供たちへのアプローチということがありました。基本、糸魚川の魚を子供や子育て世代の市民に知ってもらうことから始めないといけません。その例として、浜田はクリアファイル、沼津は深海魚のパンフレットがあります。糸魚川でも何か作りませんか。例えば壁に貼る身長計はいかがですか。糸魚川沖で様々な水深で、様々な魚が捕れていることを身長計で視覚化して各家庭や学校に配付して壁に貼ることで、魚の好き好きにかかわらず、日常的に接してもらうことができ、糸魚川の魚の認知度が向上し、さらにQRコードを添えれば、魚の情報や動画が記載されているウェブサイトへ導くことで詳しく知ることもできます。提案しますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

ご提言ありがとうございます。

子供や家庭にふるさとの魚をしっかりと認識してもらうということ、また、学び、食べていただくことは大変重要なことだというふうに考えております。

先ほど市長答弁にもございましたとおり、当市におきましてもジオ給食であったり、地魚教室であったりという活動もしておりますが、もう一歩進めまして、親子で魚をもう一度認識するといういい機会ではあるかというふうに考えております。実現に向けましては、庁内、教育委員会等とも少し協議を重ねまして、実施できるかどうか、また判断をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

これからと言わずに、既に協議してあることじゃないかなと私は思うんで、次の質問に移りますけど、学校給食や食育での糸魚川のシーフードの活用について、今度は教育委員会に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今ほど農林水産課長の答弁の中にもあったとおり、教育委員会としては、幼稚園、保育園、学校の月1回、市内の食材を使用したジオ給食を提供しておりまして、当然、メギスなり宗八カレイなどの糸魚川で捕れた魚を提供しております。

また、料理することによって食に対する知識を学んでもらうために未就学児のキッズキッチン、小学生のジュニアキッチンでも、メニューには必ず旬の魚を使った料理を取り入れて、魚を知ってもらうと。魚の調理方法を学んでいただいているところでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ただ、子供たちみんなが魚を好んで食べるかというところ、肉に行ってるようなところもありますので、そこをどう戻してくるかというところが課題になるかと思うんですけども。

そこで、子供たちの中には、魚は食べられないが魚が好きなので、魚の生態の研究者になるとか、あるいは魚のビジネスに向かうとか、雑誌や広告に携わるとか、漁師さんや調理師さんでなくとも魚に関わって活躍する子供を育てることは、教育委員会でも取り組めることだと思います。その点、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

おはようございます。

小中学校においては、生活科あるいは総合科、総合的な学習の時間を中心に幅広い職業分野について、また子供たちの興味・関心に応じて学ぶキャリア教育、あるいはジオパーク学習を推進しているところでもあります。

魚に関することと言えば、例えばある学校では同校出身の魚のフードコーディネーター、この方を招きまして、その人の仕事、あるいは魚の栄養だとか生体、食味などについて学習しています。またある学校では、海洋高校の教職員を講師にしながら水産資源を有効活用する活動について、専門的な分野も含めて学習する機会を設けているということです。こうした活動を通しまして、生きがいを持って活動する人の姿に学んだり、魚などの専門分野への興味・関心を高めたりしております。

こうした事例を紹介しながら、また、ジオパーク学習交流会という活動があります。そういったところを利用して、多くの子供たちが魚であれば魚の生体、あるいは魚に関する仕事について興味・関心を高められるような場を教育委員会として提供していきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

糸魚川の魚をおいしく食べて、習慣化する取組と経済効果について、担当課に伺います。

また、今コロナ禍で魚の価格が下がっていますが、地元の魚を食べることで漁師さん、魚屋さん、飲食店さんに経済が回り、持続するならば、そこへ市が支出し、応援をしませんか。その場合の経済効果を試算し、戦略的に取り組んではいかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

ご提言ありがとうございます。今その取組の前段に、先ほど議員のほうからもご提案いただいた中で、私のほうからもお答えさせていただきました。流通も含めた地域としての一体的な取組、また、同じ方向性を向いた取組の構築ということが必要かと思っております。本当の1丁目1番地ということになれば、まずもって子供たちがしっかりと地元の魚を認識するということが必要になってまいりますので、そういった部分、しっかりとそういったご提案いただいた課題に取り組みながら、今後進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

（4）加工品の開発と販売への支援については、ご存じのとおり海洋高校や製造業者さんの工夫と頑張りが目覚ましく、ここをさらに伸ばして経済効果を生み、雇用を生むというところを目的に、行政の支援・協力をお願いしたい、これからの取組について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

海洋高校、能水商店、行政と、これまで産学官推進連携ということで取り組んできております。今ほど議員のほうからお話のありましたとおり、確かな成果が出てきているところであります。私どものほうもさらなる今後の維持・継続も含めて、定例的な三者による会議を毎年定例会として実施しているところであります。その中で必要な支援、また協力、連携等々考えてまいりたいというふうに思っておりますので、引き続き連携に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

同じく（4）魚を使った疲労回復、長寿メニューの市民への周知と取組について伺います。

私の個人的な感想では、疲労回復には魚のだしのお吸い物やみそ汁がとてもよいと感じます。また、筒石の皆さんは、新鮮な魚を召し上がっているのです、長寿で元気という私なりのイメージがあります。糸魚川の魚を食べると、疲労回復や長寿につながるエビデンスをつくれれば、イメージアップになり、魚食の需要が広がると思いますが、そういった戦略はいかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

一般に魚介類には、DHAやEPAなどの体に必要な機能成分が多く含まれているということでございます。それを使って料理をすれば、当然、栄養価は高い。

ただ、今、議員のほうからご提案ありましたとおりイメージというのは、大変大切なものであります。そして、そこに導くためのキャッチフレーズということも大変重要なことだというふうに思っております。私ども、今ほどのそういったお話を伺いながら、そういった取組について、また協議をしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

筒石のご出身で長崎一生さんという方がおられます。先ほどちょっと触れられましたね。魚にとっても詳しく、漁業、流通に詳しく、著書もあります。長崎さんを、担当課はご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

長崎さんにつきましては、今ほどご紹介のあった地元の方ということ、また、地元紙の中でコラムを掲載されているということ、また、私ども農林水産課としましても、2年ほどになりますか、講演の実施について少しご相談をさせていただいたということで接点ございます。こういった方につきましては、また今後も連携取れるときは取っていきいたいなというところで考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

長崎さんの著書「五種盛りより三種盛りを頼め」の結びのところをご紹介します。

魚がおいしい世の中をつくるのは、人である。また、漁業・水産業には、国内消費の低迷、後継者不足など暗い話題もあるが、世界的に魚の消費が伸びており、将来性があり、夢がある。さらに魚がおいしくなれば、人々はもっと魚を食べる。人々がもっと魚を食べれば、心と体が元気になる。心と体が元気になれば、よいことをする人が増える。よいことをする人が増えれば、世の中がよく

なる。これを一言で言うと、魚がおいしくなれば、世の中がよくなるということだが、おいしい魚を食べて、魚がおいしい世の中をつくり、共に世の中をよくしましょうとあります。

私は、この考えに共感し、糸魚川のシーフードは最高、さかなのまち、糸魚川再生の質問をしていますが、今後、長崎さんをコーディネーターに地方創生を進めてはいかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

先ほど来、いろいろとご提言いただきまして、私どものほうでも前向きに取り組んでまいりたいというお話でございます。その中でそういった課題一つ一つ解決をしていこうということで、検討し、解決をしていきたいというふうなことで今進めようとしておりますけれども、その普及促進なりの課題をしていくために、必要な取組をする。そういった検討の中で長崎さんをまたお願いする。ご支援いただくというような取組も考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、（5）の市内漁港への釣り人の侵入による被害と対策の状況について、市の管理する漁港では、親不知漁港での迷惑行為が顕著と聞きますが、現状と市の対応について、いま一度担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

被害の状況としましては、釣り人が岸壁に居座る。釣りをしてるわけですけども、そこに漁船が給油作業に戻ってきた。移動してきたときに移動してくれないというところ、また、投げ釣り等によるおもり等が、出航していこうとする、また戻ってくる船に当たりそうになるという危険行為、また、港内でのごみ捨て等々、漁師にとっての非常に作業の支障になってるというふうにお聞きしております。

市の対応としましては、これまでも立入禁止看板やら侵入防止柵など、またごみ捨て禁止看板の設置などを行っているところであります。完全に侵入を防ぐ、また防いでいいのかというところの議論もありますので、今後、漁業関係者としっかりと協議をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう何年もの間の問題だと聞いているんですけども、漁港での作業ができないとなれば、漁師さん

にとっては死活問題です。管理者である糸魚川市が問題解決に当たるべきではないですか。取締りや罰則はどうなっていますか。

その一方でルールをつくり、マナーを守って釣りをしていただく方策というのはないのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

取締り、罰則等につきましては、関係者以外の立入りということに対しましては、軽犯罪法の適用になり、1年以下の懲役、または100万円以下の罰金という場合があるということであります。

ただ、実際にはそういった今ほどの先ほどの申し上げた方々いらっしゃるんですが、漁師さんもそこまでは求めてはいない。ただ、やはりお互いに感情的な動きになったときには、警察に出動を求めているという現状であります。

今後、私どもとしましては、やはりルールづくり、そして何よりもルールも守るマナーというところをどのように皆様方に理解していただければいいのかというところで、今非常に頭を悩ましてるところではありますけども、漁師さんたちの、またこれはご協力・ご理解も要ることですので、しっかりとそういったところは話を詰めていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

うまい解決策というのはないんでしょうかね。しかし、いつまでも放置しておくわけには行かない。

そこで、例えばですが、長野県の釣り愛好家で様々な事例を知っている方に相談してはいかがですか。たとえ糸魚川市の漁港でも、この問題の解決には、これから様々な人から知恵を借りる必要があると思います。

また、それをきっかけに市内漁港の観光活用につながるアドバイスも頂けるかもしれません。今後の取組を農林水産課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

ご提言ありがとうございます。私ども親不知の漁港の中にも遊漁船を利用されている方々、親不知地区の遊漁船の利用者協議会というものがございます。その中に長野県の方々が約9名加盟されているということでございます。

今ほど頂いた意見、私どもまた、その方々にも少しお声がけをさせていただきながら、そういった意見交換とかそういった取組を少し進めてまいりたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、（6）ですが、これはニーズ調査し、旅行商品を考えていくべきです。ここでも長野県の釣り愛好家の方など、様々な知恵を借りる必要があるんじゃないでしょうか。こちらは商工観光課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

いろいろな機会を捉えまして、ニーズを把握することは非常に大切なことであると思っております。併せまして、テレビ等によりましては、各種情報番組で釣りをビジネスにしている事例も多く紹介されておりますので、また、この長野県の愛好家に限らずいろんな方と情報交換を試みる必要もあるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

いろんなニーズというのは、お客さんに聞くのが一番いいと思うんですよね。それから、団体で来ていただければ、団体でマナーを守っていただけるということから、改善が図られていくんじゃないかなと。それから、何といても糸魚川の海を好きになっていただきたい。その気持ちを長野の皆さんに伝えることが大切じゃないでしょうか。

（7）ですが、ユーチューブは、情報発信の有効な手だてです。市長の最初の答弁で、ここへの支援をしているというふうにお答えがありましたが、どのくらいの支援というか予算を見てるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今ここで申し上げました支援というのは、誘客宣伝事業の補助金でありまして、個店の場合ですと20万円を限度に情報発信にかかる費用の3分の2を補助しているものでありまして、今、市内の各事業者によって有効に活用されるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

同じユーチューブの番組でも、漁師ユーチューバーがつくったものと行政がつくったものでは、面白さが各段に違います。漁師ユーチューバーのほうは、海から魚が出てくる、その動画、見ただ

けでわくわくしますよね。担当課は見比べてみましたか。もし、糸魚川と糸魚川の魚を知って、買って食べてもらえるような宣伝をしたいのであれば、見てもらえるユーチューブの作成に、さらに予算をつけて進めてはいかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ユーチューブにつきましては、比較的安い予算といたしますか、お金がかからずに取り組める情報発信の手段でありまして、全国的にもいろんな方が取り組んでおられます。

また、ここへの支援につきましては、その内容にもよりますが、今ある事業の中で取り組むことができるのか。また、それ以上のものが必要なのか、また検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

では、質問の3、新駅開業と地域づくりの再質問です。

改めて米田市長に伺います。

私の今回の質問、駅開き、まち開き、谷開き、えちご押上ひすい海岸駅開業をきっかけとする押上、西海、海谷溪谷をつなぐ地域連携エリアの複合的な魅力づくり、その必要性や物の考え方について、市長はどう思われますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

地域と地区、また、地域と地域、その地区と地区、いろんなやはり結びつきや連携というのは大切だろろうと思っております。いろいろと地質・地形、いろんな歴史・文化、そういった要素でつながる、また連携取れるものが数多くあると思っております。

しかし、今ご指摘の西海地区と押上区については、やっぱり海谷、海川流域の文化、また、流域という、やはり連携ができる要素は十分にあると思っております。しかし大事なものは、やっぱりその地区の皆様方や人と人との熱量だろろうと思っております。そういうものがなければ、連携はできても長続きしないのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

以下、担当課ごとに質問をまとめましたので、複数の内容を一緒に伺うかもしれませんが、よろしくをお願いします。

まず、建設課関係です。新駅開業事業のスケジュール、それ以降の駅周辺のにぎわいづくりの進め方について、地元押上区と協議しましたか。区民の関心は、高まっていますか伺います。

また、愛される駅と鉄道を目指して、利用者、高校生と駅や利用について話し合いをしましたか。意見や要望を聞きましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

来年の3月の開業に向けまして、地元の開業イベント部会のメンバーの皆様と、それにえちごトキめき鉄道の担当を加えた、市役所も加えた三者による打合せというものを、今年5月から毎月開催しております。その中で開業式典の内容についても協議を進めております。

また、この8月からは、そこに企画定住課も加えまして、新駅開業をきっかけといたしました地域づくりにつきましても意見交換を始めているところでございます。

また、先月末には、工事現場付近に新駅開業をPRいたします看板を地元の方から設置いただきました。また今後の新駅の利用促進ですとか、環境美化活動を一体感を持って取り組むためのスタッフジャンパーというの、地元のほうでも作っていただいたところでございます。そういう地元としての主体的な動きというのもありますので、新駅の開業の関心、機運の高まりというのを感じているところでございます。

あと高校生との話し合いということですが、これは今度、こども課のほうとも連携をしております。糸魚川の魅力アップですとか、観光振興について研究を行っておる糸魚川高校に地域探究クラブというクラブがございまして。その皆様に新駅のアイデアを求めています。新駅を最も利用いただけるであろう高校生に、より鉄道に興味を持っていただけますように、その一歩目といたしましては、えちごトキめき鉄道の雪月花のデザイナー、あとジオパルのエキプレスの再現車両でいろいろお世話になっております川西さんのほう、株式会社イチバンセンの川西先生のほうにご講義いただくことを第一歩目として、進めることを今、糸魚川高校のほうに投げかけをいたしまして、検討を進めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

川西先生、ぜひお願いして、お知恵を借ります。ありがとうございます。よろしく申し上げます。

パネルをご覧ください。

この海岸の護岸をイルミネーションで飾れば、駅改良の宣伝と海岸のイメージアップになります。

また、国道をくぐる地下道や出口シェルターが老朽化しているので、改修工事をして、シェルターの屋上をフラットにして、テラスとして使う。また、屋根を伸ばして、トイレとごみ置場を造るとよいと思いますが、いかがですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

新駅の駅名でありますえちご押上ひすい海岸駅という、この名前の由来にもなっております押上海岸の魅力アップ、イメージアップとして、有効なご意見として参考にさせていただきたいと思えます。3月の開業に向けての宣伝ということになりますと、少し時期的には難しいところですが、今後、海岸のイメージアップといったものを市としての観光的な観点に加えまして、地域の皆様のお考えなどというものもお聞きしながら、それらを考えていく必要があるというふうに私は考えております。

また、国道の地下道ですとかシェルターに対するご提言につきましても、県内見渡しますと小千谷の駅前には、ニシキゴイの模様を模したようなシェルターですとか、柏崎の鯨波のほうには、鯨の潮を吹くような形を模したようなシェルター、ユニークな事例もございます。今の押上の地下道の壁面には、いきさつはちょっと不明なのですが、子供が書いたと思われるような海の生き物の絵で壁面が飾られています。海岸地下道のイメージアップにつきましては、こういうことも今の絵も生かしていきたいですし、関係機関と協議をしながら考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

十分なお答弁をいただいたと思います。よろしく願いいたします。

次に、地元区民や市民の新駅開業を祝う活動への支援について伺います。

市民活動やイベントへの支援の形は、どのようなものになりますか。また、どのくらい予算をお考えですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

新駅整備の大きな力、この実現につながったのが、市長の答弁にもございましたが、地元の熱量だというふうに思っております、そこは感謝をしておりますでございます。整備計画当初からもそうでしたし、開業事業にも力を頂いておりますでございます。

また、開業後のまちづくりも含めまして、主役であります地域の皆様と一緒に市役所のほうも寄

り添って取り組んでまいりたいというふうに、これは当初から考えております。

また、支援につきましては、県沿線3市、えちごトキめき鉄道で構成いたします活性化協議会というものがございまして、その中のメニューに利用促進の活動等を助成するえちごトキめき鉄道利用促進団体助成事業という制度がございまして、今年度は40万円が予算計上されているところがございます。また、今年度、既に押上区の皆さんもスタッフジャンパーの製作等に一部活用いただいております。全体の予算にも限りはございますが、今後も区民の皆様、市民の方が有効に助成制度を活用いただけるように、市も積極的に関わってまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

開業後の市民活動に向けて、来年度、もっとたくさん予算を盛ってください。よろしく願います。

次に、観光課関係です。「宝石の国」のジェードのキャラクターの使用料、ヒスイ海岸の看板のライトアップの費用、バス対応駐車場整備の費用は、それぞれ幾らと見積りされますか。

また、観光誘客に向けた環境整備としては、トイレやごみ置場が必要と考えます。先ほどシェルターの改造を提案しましたが、今できる対応は今すべきです。いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

「宝石の国」のキャラクターの使用料につきましては、前回は会社のご厚意によりまして、使用料はかからなかったものと聞いておりますが、一般的には使用料がかかってくるものと考えております。

ヒスイ海岸の看板のライトアップの件につきましては、現在、具体的な計画がありませんので、金額は申し上げられませんが、電源を確保する必要がありますので、相応の費用がかかってくるものと思われま

す。次に、バスの対応駐車場の整備につきましては、現在、国道の南側に海水浴場の駐車場を設置しておりますが、バスには対応していない状況でありますので、これも整備の内容によって、費用は大きく変わってくるものと思われま

す。また、トイレにつきましては、現在、海水浴シーズンに仮設のものを設置しまして対応しておりますが、また、ごみ箱につきましては、現在、持ち帰りを原則としてお願いしておるところであります。

環境整備を行うとした場合は、国道8号ですとか、海岸保全施設への配慮が必要になってくるものと思われま

すので、総合的な検討が必要になってくるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

以前に質問しましたが、富山県朝日町との観光連携や、駅開業による誘客宣伝は進んでいますか。経済効果を生むための地元とのコンセンサスや、その対応は進んでいますか。

また、駅近くで駄菓子屋、そば屋、弁当屋、銭湯を造る。事業として取り組む人や企業が出てきた場合、市からの支援で駅周辺ににぎわいと活力を創り出す気はありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

富山県朝日町とは連携に向けました話合いは行っておりますが、コロナ禍の影響もあり、現時点では具体的なものとはなっていない状況でございます。

しかしながら、引き続き協議を進め、鉄道の利用促進とともにヒスイ海岸つながりによる誘客に取り組んでまいりたいと考えております。

また、駅周辺のお店の方とは懇談を行い、にぎわいづくりに向けた意見交換を行っているところでありまして、まち歩きマップの作成などにより、店舗や観光施設の連携を図ってまいりたいというふうに考えております。

また、駅周辺のにぎわいと活力づくりにつきましては、行政と地域住民、また、鉄道事業者や鉄道の利用者、周辺の事業者等がそれぞれの役割を果たす中で、にぎわいが生まれてくるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、次に、企画定住課関係です。

新駅開業を定住促進に結びつける策は、立ててありますか。新駅開業は地域づくりのチャンスです。押上区の駅周辺には、既に商業施設や福祉施設もあります。生活するには便利な場所ですので、ここを核にして、押上、西海連携エリアの複合的な魅力づくりの中で、移住・定住を進めてはいかがでしょうか。まずは新駅周辺への定住促進、さらに10年、20年先のビジョンを明確にバックキャストでエリア全体への定住促進を進めていくべきと思いますが、糸魚川市にその考えはありますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに地域の魅力づくりというのは、非常に人口を集める上で非常に大切なものだというふうに思っております。その上でこの地域は、やはり海川沿いという一つのラインで特徴的な景観です

とか、歴史のある資源が多くあると思います。こういったところを地元の皆様と一緒に話をしながら西海地区、それから押上地区と連携した取組を進めながら、地域の魅力を高めていくということは、非常に大事な取組だというふうに思っております。もし連携できる取組であれば、複合的に取り組んでいく必要があるというふうに考えております。

それとあと駅周辺でございますが、確かに駅周辺、非常に拠点でありますので、今後10年先、20年先、いわゆる議員がバックキャストというふうに言われましたが、いろんな10年先、20年先のやっぱり人口の集積率というのを予測というのは、非常に大事になってくると思います。そういった中で、住み続けられる地域、そこで経済、それから教育、そういったまちづくりを複合的に、それぞれの周辺で進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

パネルをご覧ください。

地域連携エリアの豊かな自然や文化を活用することについて、教育委員会に伺います。

相馬御風先生が、国宝指定に向けて尽力されたと聞いていますが、この観音像の重要性、それゆえの盗難対策や防火対策についても説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

パネルでお示しいただきました観音像は、なた彫りと呼ばれる丸のみを使って荒っぽく掘られたもので、藤原時代の貴重な彫刻として、現在は国の重要文化財に指定されております。大正12年に相馬御風の尽力によって国宝に指定されたと書籍に記述があり、観音像の国宝の指定に関して、御風は、我が生涯における最大の手柄の一つと述べたとされております。

観音像が保管されている保安庫は、頑丈な鍵で施錠され、火災報知器によりスピーカーで地区に異変を知らせる仕組みとなっております。万が一のときは、消火栓を使って初期消火をする体制となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

重要な国の指定文化財、そのことを地元の高校がちゃんと学んでいますかね。相馬御風先生が校歌を作詞した縁もあり、糸魚川高校の教育プログラムは、地元をフィールドに展開していただきたい。地域資源の発見、地域との交流が期待されますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

高校に探究のテーマ、あるいは素材の一つとして地域の文化財の情報を提供したり紹介することはできますし、それが高校生にとっては、主体的・対話的で深い学び、これにつながっていき、また、地域にとっても高校生との交流によりまして、地域づくりにメリットになるのではと感じます。

しかしながら、高校と地域が自分ごととして学びたい、取り組みたいという双方の意思や気持ちがマッチすることが肝要なのではないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

西海地区は、雪かきカレッジで早稲田大学と交流があります。早稲田大学からは10年、20年先を考え、長期スパンで地域づくりに参画してほしいと考えます。それには、早稲田大学のサテライト的な場所が、このエリアにあるといいですね。いかがですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

早稲田大学さんとは、平成26年度からのご縁がありまして、学生さんとの交流を続けさせていただいております。平成28年度には、大学との連携協定を結んでおりますので、一過性に終わることなく長期的な取組で進んでいかなきゃいけないというふうに思っております。現在は、いろいろな季節に応じて取組を変えておりますが、学生さんの持つ若い感覚、それと地域の交流によりまして、地域の活力が得られているものというふうに思っております。引き続きつながりを持っていくように、この取組は継続してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

押上から西海エリアの自然や文化財を地域の魅力としてイメージの良さを伝えましょう。情報発信は、高校生や大学生にお願いしましょう。その先にきっと移住や定住があります。それには地域が開かれているイメージが大切だと思います。

それで、開くをキーワードとして、今回ヒスイ海岸から西海、海谷の広大なスペースを生かす地域づくりを考えてみました。

さて、海谷溪谷へ行く途中に日本海が見える場所があります。すばらしいランドスケープを体感できる場所です。ご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員のお尋ねの場所は、多分、県道からずっと西海のほうへ上がって行って、それから林道へ入っていく海谷山峡パークへ行く一步手前のところなのかなというふうに推測いたしております。私も何回か足を運ばせていただきまして、あそこから見る海川に沿った開けた日本海も見えるすばらしいポイントだなというふうに思っております。まさにイメージとすれば、谷が開けているなどというイメージであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。海岸から直線で11キロメートル、標高が700メートルだそうです。その場所から私たちの遠い祖先も海を眺めていたと思うと感無量のものがあります。

以前、海川上流から河口までのエリアのすばらしさを生かそうと亡くなった伊井澤議員と語り合ったことがあります。その伊井澤議員の志は、地域の方々に引き継がれていますが、私もその一人として、さらに頑張りたい。そのことを申し上げまして、質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

11時40分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時31分 休憩〉

〈午前11時40分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本 剛です。

通告書に基づき1回目の質問をさせていただきます。

「自然環境保全事業」として行われた田海ヶ池の調査について。

本年9月に、「自然環境保全事業」として田海ヶ池の外来生物駆除、生物生息調査が行われました。この事業について、以下伺います。

(1) この事業を行うまでの経緯について伺います。

(2) 今回行われた、この事業の日程・内容について伺います。

(3) 内容は地引き網が破れる等、苦戦であったと思います。今回の成果及び評価を、どのように考えているか伺います。

(4) 今後この事業の継続や田海ヶ池を、どのように考えているのかを伺います。

## 2、「キャリアフェスティバルいといがわ2020」について。

市内の4校の中学3年生を対象に、「キャリアフェスティバルいといがわ2020」が11月12日に行われました。この事業について、以下伺います。

(1) 参加した中学生の評価は、どうであったか伺います。

(2) 出展した企業・事業者の評価は、どうであったか伺います。

(3) 教育委員会としての評価を伺います。

(4) 次年度以降の開催について、するとした場合、その内容について改善点等をどのように考えているのか伺います。

## 3、糸魚川市と県内他市町村の教育費との比較について。

「新潟県100の指標」が県から公表されています。その中に、市町村ごとの「教育費割合」があります。「教育費割合」とは、その市町村の歳出決算額（普通会計）に対する教育費の割合です。そこで、過去5年間の記録を拾ってみました。糸魚川市は平成27年度が11.3%で、その後は9.6%、9.0%、8.0%、7.4%でした。県内30市町村中、27年度が10位でしたが、令和元年度は27位となりました。

教育費には、学校の建設費なども含まれるため、単純に比較はできないものです。糸魚川市は令和元年度、ごみ処理施設整備などに多額の費用を使い、分母が大きくなったため教育費の割合が下がったものと考えられます。しかし、この5年間では27年度の10位が最高でした。

糸魚川市は「子ども一貫教育基本計画」で「ひとみかがやく日本一の子ども」を目標に掲げています。その中に「『日本一の子ども』とは、自信をもって世の中に力強く歩み出す子どもの姿を表したスローガンです。家庭、園、学校がそれぞれの役割を自覚し、環境を整え、責任をもって教育に取り組みます。」と書かれています。

私は日本一を目標に掲げるのであれば、少なくとも県平均以上の予算が必要と考えます。教育環境を整えるには、それなりの費用が必要だと考えます。

先日行われた陰山メソッド全国大会で、授業を見学させていただきました。授業では、問題を事前に大洋紙に書き、黒板に書く手間を省いて、時間を有効に使う姿勢が見られました。この大洋紙やペンも備品です。小中学校に出向いて話を聞くと、やはり備品が不足と聞きます。

来年度には小中学生全員にタブレットが配付されます。しかし、タブレットが配付されても、アップル社のタブレットに見合ったソフトに費用がかかるとも聞きます。

市の財政が厳しいこと、様々な事業に費用が必要なのも理解しています。しかし、私は市の未来を考えたとき、もっと教育にお金をかけるべきではないかと考えます。

家庭でも子供の教育のためには、お金の使用先を最優先に考えているのが実情だと思います。

現在、コロナ禍で人の意識は地方への移住に向かっています。その移住先に選ばれるためには、子供の教育環境が大きな条件だとも聞きます。

市長は、この状況をどのようにお考えか伺います。

1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、田海ヶ池の自然を守るため地元の思いもお聴きする中で事業を計画いたしました。

2 点目につきましては、農業用のため池としても利用していることから、水利用が少なくなる秋を実施日として選定し、外来生物を多く確保することができる方法として、地引き網による捕獲をいたしました。

3 点目につきましては、外来生物など 8 種 4 2 8 匹の駆除を行うとともに貴重な生物 1 7 種 2 2 0 匹が確認され、一定の成果があったものと捉えております。

4 点目につきましては、田海ヶ池には貴重な生物が数多くいることが再確認され、この自然を守っていくとともに多くの方から知っていただく必要があると考えております。引き続き生態系の保全に努めてまいります。

2 番目、3 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

2 番目の 1 点目につきましては、事後学習のアンケートにおいて前よりも糸魚川で働きたいという思いが強くなった。本気で働いている大人を見て、とても格好いいと思ったといった好意的な声が多数ありました。

2 点目につきましては、ふだん関わることの少ない中学生に会社のことはもとより、仕事への思いや生き方を直接伝える機会が持ててよかったとのご意見を頂いております。

3 点目につきましては、今回初めての開催でありましたが、産学官が一体となって取り組み、中学生、企業の双方から非常に高い評価をいただいたことから、とても収穫の多い事業であったと捉えております。

4 点目につきましては、現在、検証しているところであり、課題を整理した上で来年度に向けた検討を進めたいと考えております。

3 番目につきましては、未来ある子供たちのための教育環境の整備・充実は、重要と考えております。予算につきましては、維持管理費等の固定費に加え、学校からの要望などを踏まえた上で教育活動に必要な予算の確保に努めているところでありますが、今後も教育環境のさらなる充実を図

ってまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。

それでは、大きな1の自然環境事業について、お伺いたします。

初めに今回の事業で多くのボランティアをはじめ市の職員など協力していただき、本当にありがとうございました。御礼申し上げます。

2回目は、全体を通してさせていただきます。

今回の事業に向けて、地元と3回の協議を行ったと聞いています。デンカ田海工場ができるまでは、田海の田んぼの用水として機能していました。そのときには、池の底には泥が少なかったと聞いています。年齢でいいますと70代後半より上の人たちの遊び場であり、池の特徴をよく理解していたと聞いています。

今回の事業でなかなか苦戦した。うまくいかなかった。その経験を生かされていなかったのではないかという声がありますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

地元の方との協議の中で多くの貴重なご助言を頂きました。大変ありがとうございました。その中で作業は実施可能というふうに判断をさせていただきましたが、実際の池の状態につきましては、ご助言いただいた内容から、この数年の間にさらに状況が変化しており、苦戦をする結果になったものというふうに思っております。

しかし、本事業の実施によりまして、現在の池の状況を把握することができましたので、今後の事業に生かしていけるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

今回の事業で、地引き網を使って、例えば成功したとしても、地引き網の網がやっぱり小さければ大きなものしか捕れなくて、外来生物が、いわゆる根こそぎ捕れるというわけにいなかったと思うんですけど、その点はどのようにお考えだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

今回の事業につきましては、多様な生物の保護を目的にしたものでありまして、大がかりな水抜きですとか、泥の撤去などを行いますと貴重な生物に影響があるのでないかというふうな考えの中から、地引き網という今回のような方法を選択させていただきました。

そういったことから、当初から全量を捕獲するというよりは、7割の外来種を捕獲できればというふうに思っておりましたが、実際にはそれもままならず、うまくいかなかったという状況ではあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

5日の日に放送がありました。そのときの放送を見てると、なかなか魚が少なくてという話があったと思うんですけど、何かあまりいい印象でなくて、今伺ったところ428匹とか、いろんなそういうことがありますけど、その点について詳しく教えていただきたく思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

テレビの放送では、実際の内容としては9月17、18日の分のみの放送となっておりますが、この事業につきましては、8月の28日から10月14日頃まで継続して行っておりましたので、そういったものの中で実際の数値が増えているものというふうに思っております。

また、成果としましては、先ほど外来種の駆除ありましたが、貴重な生物としましては、環境省のレッドリストに載ってるようなものが確認されてるということでございますので、そういったものが確認できたという成果もあるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

継続するというふうにお答えいただいたと思うんですけど、次年度以降含めて、計画がもしあったら教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

次年度以降につきましても田海ヶ池を中心とした自然環境の保全につきましては、事業を継続し

てまいりたいというふうに考えております。

やり方につきましては、現在検討中でございますが、例えば釣り人との連携をして、釣りで駆除するという方法もありますし、それ以外、これまで試した方法をまたやってみるということもあるかと思いますので、また研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

仮にテレビの放送なんかをやると、もう本当に泥、根こそぎ全部あれしてというような感じがあるんですけど、もしそれをやるとしたら、あれだけの広さだと、もう億、下手すると10億を超える費用が必要なんだと思うんですね。自然保護という部分では、やはり継続してやらざるを得ないと思うんですけど、改めてその点をどうお考えなのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

今ほどお話ありましたが、やはり泥を全部取るというのは、金銭的なものもありますけども、それ以上にやはり自然環境保全という面では、好ましくないものじゃないかというふうに考えておるところでございます。ですので、次年度以降につきましては、どのような方法がいいのか、今年度やらせていただいた経過を基に検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

これで最後にしたいと思います。

自然生物の保護ということで、そちらの専門家の意見はどんな感じなのでしょう。今回の事業についての評価をお聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今回の成果につきましては、当初から地元の有識者の方にもご計画に参加していただくということを取っておりますので、そういった中でこれまでの確認ですとかが進んだものというふうに思っております。

また、こういった経験を打合せをする中で生かしていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

それでは、大きな2番に入りたいというふうに思います。

キャリアフェスティバルいといがわ、昨日の12月10日の広報いといがわで、このキャリアフェスが大きく紹介されております。一般市民もこの事業を知ることができたものと思います。改めて2回目の質問をさせていただきます。

先ほどの質問の中でもありましたけど、参加した中学生のアンケートで、この糸魚川に残ってもいいような発言がありましたけど、その点詳しく教えていただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

まだ、教育長答弁にもあったとおり全てまとまっているというわけではありませんけれども、アンケートにつきましては、実施前と実施後の生徒の気持ちの変わりようを見るために4つの中学校共通のキャリアフェスティバル学習シート、いわゆる簡単なアンケートを作成しまして、全員から記入をしてもらっています。その中で糸魚川の事業所で働いてみたいと思いますかというような問いをつけてアンケートをさせていただいて、その問いについては、全く思わない、あまり思わない、少し思う、思うの4択で記入をさせていただいて、前と後で記入をさせていただいております。

実施後に糸魚川で、まだ全てまとまっているわけではなくて、私が見る限りの答弁になりますけれども、実施後に、糸魚川で働いてみたいと思わない、あまり思わないの数が大きく減って、少し思う、思うの数が、大きく増えている状況であります。それにつきましては、生徒の地域への愛着が深まったのではないかなというふうに捉えておりますが、いずれにしろ、今後、詳細にまとめて検証していきたいと思っております。

以上です。

○議長（中村 実君）

山本議員の発言の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩といたします。13時まで、暫時休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

じゃあ引き続き質問させていただきます。

今回、出展した企業あたりは、どんな反響か詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

教育長答弁にもありましたとおり、今回出展していただいた企業、皆さんそれぞれ初の試みだったんだけど、非常に事業所にとってプラスになったというご意見もありましたし、やっぱり事業所によっては、やはりプレゼン能力といいますか、そういったものをやはりまだ磨かなければいけないといったご意見も頂戴しているところでもあります。いずれにしろやはりそういったところ、事業所のメリットも分かっていたんだではないかなというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私もいろんな企業の方からお話聞きました。やっぱりその中で初めてのことでやはり未経験だったと。来年もしやるんだったら、こんなことやってみよう、あんなことやってみようとか、やっぱりそういう声が聞かれました。今回コロナでなかなか出られなかった企業もあると思うんですけど、来年に向けて、やはりぜひとも企業の方にそういういいようなプレゼンできるようにしていただければというふうに思います。

いろんな話を聞く中で、実は保護者のほうからも私も参加したかったという声があるんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

そういったお声も私どもも頂いております。今年はコロナの影響で、保護者の方にはご案内はしなかったところなんですけれども、それは保護者だけではなく、参加しなかった企業も報道等によって来年はぜひ出させてもらいたいというようなお声も頂いています。幸い動画でも、撮影を当日させていただきましたので、今後、会場に来られなかった事業所、また保護者の方にも当日の雰囲気や少しでも感じてもらえるように、また今後、周知といいますか、広めていきたいなというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

市長も参加していただいたんですけど、市長の感想を聞かせていただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も議員ご指摘のとおり、出席をさせていただきました。やはり感じたのは、企業説明会と違って、非常に企業の皆様方も自分たちの特徴をしっかりと、物づくりや生徒に説明する中で、特徴を出すことができたと思っておりますし、今ほど課長が述べたように100%じゃないにしろ、そういったまた新たな1つの展開ができたというのを、企業側にも感じたのではないかなというのを感じました。そして、やはり何よりも生徒の皆様方が、非常に熱心に説明を聞いて、企業説明と違った雰囲気、非常に私は印象的に残りました。これはやっぱり続けるべきだなというのを感じました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、昨年、伊那市を見させていただきましたが、伊那市の場合は、もう最初からフリーで、自分の好きなブースにという感じが、糸魚川の場合には午前中は自分で最初に希望したとこというような形で工夫されたんだと思うんですね。その点はすごくよかったというふうに思います。

今回やった中で、やっぱり企業が中心だったと思うんですね。それに対し伊那市で行った場合には、地元のサークルだとかいろんな方が参加しておりました。やはりコロナ禍で、これが仕方がなかったのかなと思うんですけど、来年あたりからやるのであれば、そういうようなことも加えていただければと思います。

私、ある方に聞いたことがあるんですけど、押上の方で一の宮の祭りが好きで、やっぱり糸魚川を離れたくなかったと。こういう話を聞いたことがあります。いわゆるそういう方、祭りばかりじゃなくてあるんだと思うんです。例えば山が好きだから、この糸魚川はいい。そういうサークルの方もやっぱり来てもらって、うちのサークルに入ってもらいたいとか、例えばスポーツだとか、そんな形も加えて、やはりこの糸魚川を知るチャンスにするべきだと思うんですね。ただ一方的に聴くんじゃなくて、自分がそこに行って、本当に生の声を大人と会話もできる、答弁もできるということが大事だったと思うんですね。その点、これから伺いたいと思います。NPOだとかスポーツ関係、芸能なんかも含めてですけど、その点どのようにお考えなのか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

この事業の目的は、子供たち、生徒が糸魚川で生きる大人の仕事に対する誇りだとか、生きざまに触れて、地域への愛着、また個人としても自分を見つめる力、やればできると信じて、自分から

行動する力などを育むことであります。当然、企業に限らず地域への愛着ということを考えれば、地域で生きてる、活躍している方など、多様な大人との対話が必要だと思っています。多くなれば、スペース的な課題もあるんですけども、また検討していきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

伊那市で行われたときに、糸魚川の総合体育館の大体育館ぐらいのが、同じ施設内の中にあるんですね、2つ使って。そういう面ではかなり優位なところだったと思うんです。

ただ、糸魚川の場合には、サブ体育館が小さいですね。とは言いながら、幸いなことに中学校、糸魚川中学校はすぐそばですので、工夫すれば何とかなるんじゃないかなというふうに思ってます。その点も加えて、今回は今よりもやっぱりいろんなサークルも参加していただければというふうに思います。

先ほどの中で、大人との会話も含めてやはり中学生、高校生は、自分の将来を決めるときに、当然本人ですけど、それ以外に親の意向というのが、かなりあるんだと思うんです。それこそ我々の時代は、長男は残るのが当たり前で、以下はというような感じでしたけど、今はもう本当に長男も含めて外に出てもいいよという親が多いのかもしれませんが。でも親の意向というのは、やはり子供にかなり通じる。そういう面で先ほど言った、大人もそういうふうなんを見る機会、いわゆる糸魚川の企業を知る機会ということでは、大事なのではないかと思うんです。改めて、大人も加えることも検討していただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほどの答弁と同じになりますけれども、やはり当然、保護者も見ていただくような、私ども昨年、私も伊那市を見学したんですけれども、やはり保護者にも見てもらいたいと思ってはいたんですが、このコロナ禍で保護者にはご案内をできなかったという状況であります。コロナが落ち着いた段階ではやはり保護者、当然子供たちが学んでいる姿を保護者も見る。地域の人々の生きざまも保護者も見ていただく。それでうちに帰って、一緒に話をさせていただくという場も大事だというふうに思っておりますので、来年はぜひそういうような形で進めていきたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

今回のその中で、昼休みに糸魚川の3校、糸魚川高校、白嶺高校、そのプレゼンみたいのありました。そのとき私、後ろで見させていただいたんですけど、いわゆる何かが一方向的にやることに関して、何かみんなぼさっとしてるというか、その点に比べるとやはり数名でああいうところでブ

ースに行ってというのは、かなり良かったと思うんですね。そういう面で、逆に言いますと3校もブースを出したらいかがとは思いますが、その点考慮というか、考え方を聞かせていただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

キャリアフェスティバルが終わってから、すぐ4校の中学校の校長先生と少し懇談を、キャリアフェスティバルの件で懇談をさせていただきました。その中で今回の高校の発表は、中学校に来て、高校説明会と同様のような形だったので、中学校の校長先生からも、ぜひ中学生と触れ合えるような形にさせていただきたいというようなご要望も頂いております。

これまた高校へもお話を通さなければいけません、形を今回のような形には、改めてまたちょっと高校のほうとも相談をさせてもらいたいなというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私も中学校の校長先生あたりと話すと、やはりそういう話が出ておりました。ぜひともそんな感じで、実際に高校生と中学生が話す機会がというのが重要だと思います。例えば学校単位じゃなくて、糸魚川高校、3校が一つのブースじゃなくて、例えば糸魚川高校の野球部、何々部、そういうブースの作り方もあるかと思うんですね。そうすることによって糸魚川の中学生が、地元の高校にという一つのルートができるんじゃないかというふうに思いますし、その点ぜひとも考えていただければというふうに思います。

同じように上越教育大学もありましたけど、いわゆるその点もできれば何か考える必要あるんだと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今回、上越教育大学の皆さんからは、皆さんのアイスブレイクというところを担当していただきました。議員おっしゃるとおり、アイスブレイクではなく生徒と触れ合うというような、もっと触れ合うというようなところも検討していかなければいけないというふうに思っているところでありますが、いずれにしろ今回のことを踏まえまして、来年度さらに内容が充実するように検討を重ねたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。先日の議会運営委員会の中で、やはりこれに議会としても出展しました。その報告がありました。やはりよかったという声の報告だったと思います。ぜひとも来年は、今よりもよくして続けていていただきたいというふうに思います。

次に、3番目の質問に入りたいと思います。

先ほど3番目の質問に教育長のお答えでしたけど、市長はどうお考えなのか、お聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

一つの観点の中で、教育費という捉え方をされております。しかし、教育関連の中においては、教育に含まれなくてもあるものが結構あると思っております。やはり縦割りだけではないところも今結構ある部分ございますので、そういったトータル的なところを見ていただければありがたいなと思っております。

しかし、一つの目安としては、そういうところがやはり気になる点かもしれません。内容について充実をさせていきたいと思っておりますし、その結果が教育費と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

新潟県の100の指標の中に小学校児童、中学校生徒の一人の教育費用も載っております。この教育費用とは、教育費を公立小中学校児童数、生徒の数で割った金額が出されております。

そこで、この指標の確認できる25年度から29年度の、これホームページ見ましてもその年度しか出てないんですけど、平均金額小中学校当たり、県の30市町村中の順位について伺います。

5年間の平均で糸魚川の小学校では、約57万円で16位です。中学校で50万円で20位でした。先ほど市長の答弁もありましたように、これ教育イコールということだとは思いますが、この数字をどのように感じているのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

お答えいたします。

今ほど議員がおっしゃったような数字が、100の指標のほうに出ているところでありまして、市といたしましては必要な予算を計上し、確保しているところでありますけれども、他市との比較ということになりますと、教育費には学校建設費など多額な予算を伴う事業費ですとか、小学校費

につきましても、小学校の改築・改修、あるいは中学校も同様ですけれども、そういったハードウェアに係る部分もかなり占める部分もあると認識しているところであります。ですので、他市との比較ということになりますと、どうしても順位が上下、上がったりが下がり下がりというものが、その年によってあるものとして把握をしているところでありますけれども、今後も教育長の答弁にありましたように必要な予算の確保について努力をしまいたいというふうに考えているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ちなみに小学校の児童1人当たりの、過去5年間の1人当たりの金額、教えていただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

小学校児童1人の教育費の5年間、25年度から29年度の数字になりますが、平均では56万7,210円という数字になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

申し訳ありません。年度ごとの数字、直近の30年度と元年度は出とると思うんですけど、27年度から結構ですので、もしお聞かせいただければ。小学校、中学校ともにできればお願いしたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

27年度につきましては48万4,900円、28年度は54万5,484円、29年度は47万1,078円、30年度につきましては52万8,603円、元年度は58万7,797円という数字になっております。

中学校費につきましては、27年度が38万5,363円、28年度は43万9,954円、29年度は72万4,462円、30年度は58万8,742円、元年度は64万875円となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

先ほど質問の中で教育費割合が下がってきるとは言いながら、現実にはここには、やはりかなり上昇してきます。これ糸魚川ばかりじゃなくて順位が上がらないのは、ほかの市町村も結構やはり教育費に金をかけてきてるなというふうに感じております。

糸魚川の場合、小学校では陰山メソッド、中学校では先ほどのキャリアフェスティバルだとか、あと高校では、高校を核とした人材育成事業など、他市にない独自の教育が行われているというふうに高く評価しております。

しかし、初めに申しましたように、やはりまだ学校現場では、ちょっと備品だとかいろんな部分で不足だというふうに言われておりますので、ぜひともそちらにも予算を割いていただいて、子供たちのために増額をお願いしたいというふうに思って、私の質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

職員入替えのため、13時25分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時20分 休憩〉

〈午後1時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。〔4番 吉川慶一君登壇〕

○4番（吉川慶一君）

清政クラブの吉川慶一です。

1回目の質問をさせていただきます。よろしく申し上げます。

1、農業所得（振興）の向上について。

今年も、7月の日照不足や8月に入ってから的高温、また、収穫期での降雨など、不安定な気象状況に悩まされましたが、昨年の過去最低水準と言われました一等米比率も回復し、胸をなで下ろしました。

一方で、令和2年産米の仮渡金は、一般コシヒカリは1万4,000円で昨年比900円の減額、新之助では1万5,200円で1,800円の減額となりました。また、令和3年の需要に見合った主食用米の生産量も、昨年から約30万トン減の693万トンと発表されました。これは、近年の人口減少に加え、コロナ禍の影響もあって民間在庫量が増えるためとされ、農業者にとっては、過去最大の減産幅となる厳しい目安であり、非主食米等への転換が求められているものと理解しています。

米価の下落は、農業者の経営継続への意欲減退にもつながり、今後さらなる離農や耕作放棄地の増加を招くのではないかと強く危惧しております。糸魚川市の農業を将来にわたって持続可能なものにするためには、今回のコロナ禍の影響も教訓にしつつ、何らかの手だてが必要と考えますが、当市の状況と対応について伺います。

(1) 令和3年産米の作付に向けた課題と、その対策について伺います。

主食用米から非主食用米への転換や高収益作物への転作など、米価の安定、所得の安定に向けた取組について考えているかを伺います。

(2) 農業収入の維持向上に向けた取組について、現在の考えを伺います。

(3) 農作業に係るコスト削減の取組と、基盤整備事業の状況について伺います。

## 2、マイナンバーカードの普及と利活用について。

新内閣が発足し、国民生活の利便性向上を目指すため、デジタル庁が新設される予定です。デジタル社会のツールの一つとして、マイナンバーカードの利活用が国と地方においても重要視されています。マイナンバーカードは、平成28年1月に発行が始まって以来、5年近くが経過し、国は、マイナンバーカードの普及と利活用に取り組み、また、地方公共団体における利活用に推奨していますが、今後のマイナンバーカードの普及と利活用について伺います。

(1) 市民のマイナンバーカードの取得率の経過はどうか。また、今後のマイナンバーカードの取得促進に向けての取組はどうか、伺います。

(2) 現在の当市における、マイナンバーカードの利活用について伺います。

(3) 今後の利活用に向けての取組について伺います。

## 3、新型コロナウイルス感染症下で、災害が発生した際の避難所対応について。

(1) 新型コロナウイルスは終息せず、避難所の3密対策で親戚、友人宅等への避難も選択肢の一つとなり、避難所は避難者の収容数が限られてくると思いますが、どのように対応し、高齢者をはじめとする要配慮者の避難をどのように進めているか考えを伺います。また、事前の出前講座等で避難時の対応が周知できているか伺います。

(2) コロナ禍での避難所対応者の配置、検温等の受付対応や高齢者、発熱者等の感染防止対策の考えを伺います。また、発熱者や濃厚接触者等が一時的に避難された場合の受入対応について伺います。

(3) 高齢化が進んでいる地域もありますが、高齢者等をどのように避難所に誘導する計画となっているか伺います。

以上で、1回目を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、県から発表される 3 年産米の生産数量を参考に、米価や経営の安定対策などについて市再生協議会で協議してまいります。

2 点目につきましては、主要品種であるコシヒカリの品質向上と収量確保への取組を強化する一方で、農産物加工や高収益作物の栽培などによる多角化、複合経営の導入促進を図るなど引き続き関係機関や団体と連携してまいります。

3 点目につきましては、農地集積・集約の推進や ICT を活用したスマート農業、機械の共同利用の推進に取り組んでおります。

また、圃場整備を 11 か所で計画・実施しているところであり、引き続きコストの削減に取り組んでまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、取得率は、本年 3 月末現在 15.8%であったものが、11 月末現在で 21.3%と、本年度に入り 5.5 ポイント伸びております。

また今後、出前や休日における申請受付などを行ってまいります。

2 点目につきましては、住民票、戸籍等のコンビニ交付、所得税の電子申告やマイナポイントによるキャッシュレスの推進に取り組んでおります。

3 点目につきましては、健康保険証や運転免許証の一体化などの動きと並行して、カードの普及促進に努めるとともに、子育てや健康づくりなどカードの利活用を進めてまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、収容人数を 3 分の 1 程度に見直し、分散開設を行うこととしております。

また、出前講座でも高齢者などを含め、早めの避難行動で安全を確保することなど、周知に努めております。

2 点目につきましては、6 月に作成した新型コロナウイルス感染症対応避難所運営マニュアルに沿って対応してまいります。

3 点目につきましては、避難行動要支援者避難支援プランに基づいて、地元と避難体制の確認を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4 番（吉川慶一君）

大変ありがとうございました。

じゃあ 2 回目の質問をお伺いします。

市長から細かい答弁をいただいたんですが、私、要点だけこれからちょっと二、三お伺いいたします。

まず最初に農業収入と向上ですが、大変農家の方はこのコロナ禍で大変工面しておりました。そ

こで、私なりにお伺いしたいと思います。

高収入作物の転作、米価の安定の具体的課題をお伺いします。担当課、よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

米価の安定のためには、全県的に転換推進を図る必要があります、高価格のコシヒカリ生産量が多い本県においては、主食用米、非主食用米の価格差が課題というふうに捉えております。

また、高収益作物への転作は、新たな初期投資、労働時間の延長などが課題として上げられております。また、負担も大きいというふうに言われているところであります。

私どもとしましては、国、県、JA等と連携しまして、国の制度を活用しながら農業者の収入の確保に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

農家にすると、米価が下がると大変困るわけですが、やはり状況からすると大変厳しい時代に入っているかなと思っております。ぜひ最低限でも横ばいになるような、ひとつ今後でもご尽力いただきたいと、こう思っております。

2問目に入りたいと思います。

市内の農産物等の直売所、地産地消の推進、園芸生産の拡大と農業収入の安定化を図る園芸収入が必要だと思う。その課題と対策について、担当課はどうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

園芸収入につきましては、昨年から枝豆の生産拡大に取り組んでおり、来年度はさらに面積が増える予定であります。収量の確保や品質の向上等の課題があり、引き続き関係団体と連携して、栽培指導等を行ってまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

園芸収入、これからそういうことも必要だということをご説明いただきましたが、非常に園芸収入には、手がかかるし大変なこと、分かるわけですが、ぜひご指導いただきたいと、こう思っております。よろしくお願ひします。

続いて3番目行きます。

3番目でコストの削減についてちょっとこれからお伺いしますが、コスト削減するにはいろんな方法があるかと思いますが、まず冒頭で米作りの分散、集落営農の導入の推進、基盤整備事業の導入、スマート農業等の導入推進とこういうことが言われております。この取組状況をお伺いすると同時に、市内の状況も併せてお願いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

コスト削減の取組につきましては、議員のおっしゃいますとおり作期分散、基盤整備、集落営農、機械の共同化の推進に現在取り組んでおります。

また、市内ではドローンを活用した防除や施肥を実施している方もおられます。こういった実施効果などをまた情報収集しながら、さらに導入推進を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

次に、今、市長からも答弁ありましたように、これからはICTに伴って基盤整備が今市内でも進められておると思うんです。今後ますます進むと思います。これらも合わせて転換期になるんじゃないかなと、こう私も予測しております。ぜひ大きなご指導をいただきたいと、こう思います。

続きまして、やはりつくれば消費しなきゃならんわけですので、農産物の消費拡大や販路拡大の取組、これが大きく必要と思っております。これには売れる米、それから売れる野菜を作ることが必要と思っております。この取組状況についてお伺いします、担当課。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

今、国の米政策の中で需要に応じた米生産という言葉がありますとおり、やはり議員ご指摘のとおり消費動向に対応した農業生産が基本であるというふうに考えております。

当市においてもJA、また県と連携をしながら、品質向上に向けたさらなる栽培指導、気候変動に対応した情報提供、これらにしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

やはり進めていくには、お金が先行していくんじゃないかなと思っております。

次に、地域との一体化に向けた中山間地域の直接支払制度の活用について、お伺いします。

また、第5期の中山間地域の直接支払いが今年度スタートしましたが、地域振興、人材確保と育成、地域と協力しながら地域資源を深掘りする取組が必要でないかと思っております。これについて詳細をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

議員お申出のとおり、今年度から第5期対策が始まっております。今の議員の言われるとおり、この対策の中で人材や地域資源の取組、集落との連携というところが、言われるとおりのことだと思っております。第5期では、集落機能強化加算というもので、新たな人材の確保や集落機能を強化する取組を行う場合の加算というものもついておりますし、そういった点で、また私どものほうと、また地域としっかり話し合いをしていきたいなというふうに思っております。

いずれにしても、農業や集落の維持を図っていくために集落戦略というものを作成することになっております。これは農業者の方々と話し合いを進めていただくということでございます。中身につきましては、農業生産活動の継続への人材含めた地域の掘り起こしということが主なものになってまいります。そういったものをしっかりと活用につなげていくという取組が必要になってまいりますので、繰返しになりますけれども、私も関係機関・団体、連携してしっかりと地域と結びついていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ありがとうございました。やはり農業をこれから農業を進めていくには、やはり最終的には、私、これから行政の指導を重点的にお願いしたいと思っております。やはり耕作放棄地を作らないようにするには、農業者、関係者がやっぱり一体となって進めていかなきゃならないと思っております。

お願いですが、人が減れば耕作地は減る。耕作地が減れば、生産能力も縮小し、農村地域の活力も減退していく。農業は糸魚川市の重要な産業であり、お米や野菜は誇れるものだとすることを改めて認識し、事業推進に努めてほしいことをお願いして、終わります。

続きまして、マイナンバーカードの普及について、お伺いたします。

2番目のマイナンバーカードについて、もうマイナンバーカードは四、五年前から進めておられるんですが、私、過去に聞き漏らしがあると思っておりますので、いま一度ご確認をさせていただきたいために、再度ご質問させていただきます。

まず最初に、全国、新潟県と比べ、当市の取得率、また当市の年齢別の取得率はどうですか、お伺いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

全国の取得率は、今月3日現在で23.2%、また、11月30日現在の新潟県の取得率は17.6%であり、当市の取得率は、先ほど市長が答弁したとおり21.3%で、交付枚数は8,965枚であります。全国より若干低く、県内では20市中、4番目に高い取得率でございます。

また、当市の年齢別の取得率でございますが、二十歳未満が7.4%、二十歳以上、65歳未満が19.9%、65歳以上が28.6%と、高齢者の取得率が高い状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

今お答えいただいた中で、若干お聞きします。

なぜ高齢者が取得率が高いのか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

高齢者につきましては、運転免許証等の顔写真つきの身分証明書をお持ちでない方が多いため、身分証明書としてマイナンバーカードを取得される方が多いように思われております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

どんどん増えればええと思って、私も個人的には思っております。

次にお伺いいたしますが、やはり増やすためには大変なことは分かると思いますが、どうしても身近に置くためには、いろんな問題等があるかと思っておりますので、ひとつ取得率を上げるよう、ご努力をお願いしたいと思います。

続きまして、取得の取組でございますが、問題は多少あると思っております、今お尋ねしたように。高齢者とかが取得しやすくなっているか、細かい話ですが、ご確認します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

マイナンバーカードの申請方法につきましては、スマートフォンやパソコン等のオンライン申請と、あと郵送の申請がございます。高齢者で、申請手続きが困難な方につきましては、市役所にお越しいただければ、職員と一緒にオンライン申請のお手伝いをさせていただきます。市役所でオンライン申請を行う場合は、本人確認の身分証明書だけお持ちいただければ、顔写真等も市役所でお撮りいただけますので、事前のご用意は不要でございます。

また、マイナンバーカードを受ける際に、暗証番号の登録が必要になります。どうしても一度、市役所にお越しただいて、受領いただくことになるんですが、やはり平日お仕事等でお見えになれん、ご都合のつかない方がいらっしゃいますので、今後は休日窓口の開設等を対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ちょっと何か分かりにくいようでしょうけど、一般の方聞かれて分かるかなと、私もちょっと疑問に思っとるんですが、担当課の方、ご努力に感謝いたします。

たまたま二、三日前に新聞で、私見ました。市内へ出てご指導されたということがありました。このPRです。出前講座をされたんでしょうね。市民への取得のPRは、どのように行われてきたか、再度お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

PRにつきましては、広報おしらせばん、あるいはホームページにマイナンバーカード取得についての掲載や、先ほど議員さんおっしゃいました出前講座で、マイナンバー制度の説明に合わせて取得のPRを実施させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

関連してお聞きしますが、出前講座での市民のマイナンバーカードに対する意見・声、どんな声をお聞きでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

先日、12月6日の日曜日、田沢地区で出前講座を開催いたしまして、私も出席をさせていただきました。30人近い方がご参加いただきまして、大半が高齢者でございました。ご意見といたしましては、マイナポイントの制度が分かりづらい。それとコンビニ交付も、実際コンビニに行って、挑戦してみたんですが、機器の取扱いが分からなかったというようなご意見を頂戴しております。

やはり高齢者につきましては、身分証明書の利用や提示するだけで、例えば料金が割引かれるといった簡単な利用方法が必要であるというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

そのとおり私も感じておるんですが、ちょっと分かりにくいところが、私あるかと思うんですが、これが疑問が出るのは私個人的だけなんでしょうけど、マイナンバーカードの取得で、取得は、これ義務づけられているのかどうかをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

取得につきましては、義務ではございません。

しかし、国は最終的に全国民に取得をしていただくことを目指しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ありがとうございます。ここが一番大事なところでないかなと私も思っ取るんですが、どうしても勘違いして、義務化がつつい優先しちゃって、行かなきゃならんがだとか、法律があるんだとかという勘違いされてる方もいらっしゃると思っております。

これに、これマイナンバーカードですが、有効期限というものはあるんでしょうか、お伺いしますが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

マイナンバーカードの有効期限は、二十歳以上が10年、二十歳未満は5年であります。そのほかマイナンバーカードのICチップに搭載されている電子証明書の有効期限もございまして、こちらの期限が5年であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

そこで、今マイナンバーカードで、どうしても個人情報を守られるのかどうか、個人情報も含まれているのかどうか、この辺をお伺いしたんですが。

関連して、マイナンバーカードのICチップから重要な個人情報が筒抜けにならないのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

マイナンバーカードのＩＣチップに入っております情報は、現在は氏名、住所、性別、生年月日の基本４情報のみで、税や年金等のその他の特別な個人情報、入っておりません。

それとＩＣチップの情報を利用するには、暗証番号が必要になります。不正に情報を読み出そうとしますと、自動的に情報を消去する機能が、カードの中に設定されております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○４番（吉川慶一君）

ありがとうございました。市民の方が安心して、ひとつマイナンバーカードを利用していただきたいなと思います。

２番目へ行きます。

利活用について、ご質問したいと思います。

これまでマイナンバーカードがなくても、生活に支障がなかったと思いますが、なぜ制度を推進してるのか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

国は、デジタル社会を目指しております、より便利な社会を構築するためにマイナンバーカードを利用した各種オンライン申請等を今後推進してまいりますのでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○４番（吉川慶一君）

関連してお伺いします。

当市におけるサービスの利用状況をお聞きしたいと思います。どのように利用されているか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

当市における主なマイナンバーカードを利用したサービスにつきましては、住民票等のコンビニ交付がございまして、コンビニ交付につきましては、昨年度１年間で６３３件のご利用をいただいております。今年度に入りまして、４月から１１月末までの８カ月で、既に６１２件ご利用いただいておりますので、このまま推移しますと、今年度は最終的に１，０００件近いご利用があると見込んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ進めて、利便性を図っていただきたいと思います。

3番目に入ります。

今後の利活用についてお伺いしますが、細かい詳細ですが、庁内の関係部署で利活用についての協議は行われておるのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

総務省の地域情報化アドバイザーをお迎えしまして、マイナンバー制度の国の動向や他市のマイナンバーカードの利用状況について勉強会を行っております。また、関係部署で利用について検討を進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ関係機関で利用する方法を勉強会でも協議会でもいいんですが、ひとつぜひ進めていただきたいことをお願いします。

それから、続きまして、子育て、健康、高齢者等についての利活用を進めてはどうかとお伺いします。担当課お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

マイナポータルを利用しました子育てのワンストップサービスや高齢者には、身分証明書の利用など、その他各種行政手続の利用について関係部署で検討を進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

再三お願いしとるんですが、ぜひ関係機関、また手続等で打合せをよくしてください。それで、利用を推進していただきたいと思います。

続きまして、次に、健康保険証としての利用は、いつから開始されるかお伺いします。担当課お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

健康保険証の利用につきましては、来年3月からスタートいたしますが、実際の利用につきましては、医療機関や薬局ごとに実施体制の整備が必要になります。国では、令和5年3月末までにおおむね全国の医療機関等で利用を開始するよう目指しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

もう一点お願いします。

所得税の確定申告の医療費控除にも活用できると私聞いとるんですが、このメリットは何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

メリットにつきましては、マイナンバーカードを保険証としてご利用いただきますと、医療費控除を受けるために必要であります医療機関の領収書や医療費などの計算記入が一切不要になります。そういったことで確定申告が、より簡単に行うことができます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ありがとうございました。細かくお聞きして、大変ありがとうございました。

私は、最後になりますが、市民生活の利便性向上のためにマイナンバーカードの利活用について、全庁で検討を進め、早期に実現できるよう取り組んでもらいたいことをお願いし、マイナンバーカードの質問を終わります。

続きまして、新型コロナウイルス感染症の避難所の対応について、お聞きいたします。

先ほど市長からもいろいろお聞きしたんですが、私なりに2回目の質問をお願いしたいと思います。

コロナ禍で、避難所の設営をどのように行い、避難者の行動指示、周知、避難訓練のマニュアル等をどのように徹底されるか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

コロナ禍での避難所の設営に当たりましては、何といたっても密を避けるという意味で、個人個人の避難スペースの確保、通常よりも、今までよりも3倍ぐらいの広さを確保すると。あと避難所内での通路の確保、そういったことを基本に避難所を設営していくことにしております。

また、避難所に入る際に、しっかり体温を測る。熱がある人は別のところに分ける。そういったことを基本としております。

なお、このようなことについて、私ども出前講座等で地区への指導といたしますか、説明会等を行いながら理解を得て、地区の皆さんの理解も得るといようなことで進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

避難所の3密対策、これは大変じゃないかなと予測しております。

それで、もう一つ関連で、そうすると3倍ぐらい必要だということでしたね、敷地。この避難所の増設するときには、どのように計画し、周知をしていく予定でしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

避難所の増設といたしますか、避難に来られた方が、予定よりももう多くなって、入り切れなくなったとき、そのときには第2次避難所ということで、あらかじめ予定した場所を幾つか設定してございますが、そちらのほうに誘導すると。そして、まだ避難をこれからされるような方のためには、防災行政無線等で周知を図るといことで考えております。

また、避難所自体、そのようなことで圧倒的に不足が予想されるわけですから、各知人、親族のうち、知人のうち、そういったところの、単に避難所に行けばいいということではなくて、分散した避難ということも、併せて周知をしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

多くの方が、避難者出た場合、そうすると、こうなるとますます大変になるのは避難所の職員配置、これが非常に大変になるかと思いますが、第2、第3の計画というものは、もう事前に作成済みなんでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

第2、第3の避難所と申しますか、そういったところは、避難体制というのは、避難所受付体制というのは、そこまでは明確に個人名まで入れて、誰それがどこに行くというところまでは決めてございません。

ただ、そのときのその時点の状況、あるいは範囲等によって、なかなかあらかじめ決めておくことが難しいものですから、ある程度、例えば糸魚川市で申しますと、市民課と、その次は教育委員会から人を充てるとか、そういった大まかな決め方をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

続いて、（3）をお願いいたします。

この非常に高齢化が進んでいる問題なんです、高齢者の避難、私も非常に大変だなと思っております、ますます人が必要だし、コロナ禍になると大変です。

そこで、私なりに疑問視したのは、消防士に感染の疑いが発生したときに、この対応はどのように計画されておりますか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

消防士、消防内でコロナの疑われる人が出たという場合には、まず、私ども事務所の中で部屋を分けて、要は1か所に全員がおらないような体制をまずつくっております。その中でも、またいよいよ市内でいろいろと発生が増えて、危険な状態になってきたときには、私ども消防4か所あります。消防本部と分署等を合わせて4か所ありますが、これを例えば2か所に減らし、職員を集約させるとか、後は、現在3中隊制で勤務に当たっておりますが、これを2中隊制にして、勤務を工夫するとか、そういったことで対応することとしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ありがとうございます。心強い消防士、ぜひ疑いのないような対応をしていただきたいことを切に要望いたします。

次に、災害避難所と指定避難所へ、この避難所のマスク、消毒、手袋、パーティション等の備品準備できているかどうかと。これは再三再四お聞きしとるんですが、具体的に今はコロナ禍で対応どうなってるのかを、いま一度お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

コロナ関係の避難所の関係の備品につきましては、本年度6月、あるいは9月に補正で手当てをしていただきまして、今品物の調達に動いておるところでございます。ほとんどの品物は、既に調達済みで、各避難所となる予定の施設に配付済みでございますが、中には段ボールの間仕切りであったりとか、あるいは防護服であったりとか、そういったものにつきましては、品薄で、まだ手に入らないというものもございます。それにしても、いずれにしても3月末までには入る予定ということになっておりますので、着実に準備を進めておるということでご理解願いたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

本当におかげさまで糸魚川は、疑い者が少ないちゅうか、ないので、大変喜んでおります。このまま続くようにお願いしたいとございしますが、いつ何どきどうなるか全く分かりません。ぜひ皆さんで予防をしていきたいと、こう思います。また皆さん、市民からも協力を得ていきたいなど、こう思いますのでよろしく申し上げます。大変細かいとこまでご確認させていただきまして、大変ありがとうございました。

以上で、質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

関連質問ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

担当入替えのため14時25分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時18分 休憩〉

〈午後2時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、滝川正義議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。〔6番 滝川正義君登壇〕

○6番（滝川正義君）

創生クラブの滝川正義です。

大きく3点について、一般質問いたします。

1、まず、令和3年度予算編成方針とコロナ禍についてお尋ねいたします。

10月16日付の予算編成方針の通達では、冒頭に、コロナ禍においても引き続きスピード感を持って、真に市民本位のサービスの提供、市民満足度の向上に資する市政の展開を図ると、例年になく緊張感の高い言葉で始まっております。

(1) そこでお尋ねしますが、当市の状況の項で、市民生活や経済活動を再起動しているところであると述べておりますけれども、再起動とは、再開あるいは復活という意味かと思いますが、現段階で市民生活及び経済活動がコロナ禍以前の、どの程度のレベルまで回復していると認識しているのか伺います。

(2) 次に、「このコロナ禍に対応することは事業見直しの転機であり、転換しなければならない重要な年でもある」としてありますが、コロナ禍と事業見直しがどう結びつくのか、いま一つイメージが湧かないところでありますので、お聞きいたします。

(3) 次に、2年度の予算編成方針では、「『子ども』と『若者』、『シニア』、『女性』をターゲット」にすると宣していましたが、3年度では「安全安心」をキーワードにするとしています。これは大きな転換かと思いますが、なぜ、この安全・安心を重点施策のキーワードにするのかお尋ねします。

(4) 次に、健康面での安全・安心に関しては、議会としても去る10月7日にコロナ対応への要望書を市長へ提出させてもらいました。その中で、「事業主、従業員の感染不安を解消するため、民間事業者が行うPCR検査を受けられるよう助成制度の創設を」要望したわけですが、どのように受け止めたか伺います。

(5) 重点施策に災害に強い人命、暮らしを守り、支えるインフラ環境整備が上がっております。一方、菅首相が「自助・共助・公助、そして絆」というフレーズを掲げています。このフレーズが経済分野や社会福祉分野など、どこまで影響を及ぼすのかは、なかなか定かではありませんが、仮に、防災面でこのフレーズが適用された場合、大きな懸念を覚えます。といいますのも、私は防災面に関して言えば、公助で不足する部分を自助や共助で補うものだと、そのように思いますが、菅首相のフレーズでは、自助が最初に来ております。防災面から見て、このフレーズについてどのようにお考えか伺います。

2、次に、行政のデジタル化について、何点かお尋ねいたします。

予算編成方針の留意事項として、新たに行政デジタル化の推進が掲げられております。また、国においては、政府と地方自治体のデジタル化を最優先事項としているので、これに関して何点か質問いたします。

- (1) 今年度、戸籍の電算システムの改修を1,258万4,000円の予算で行っているわけですが、一方で、政府が自治体の業務システムの標準化に向け、動き出しました。整合が取れるのか、スムーズな移行ができるのかお尋ねいたします。
- (2) 国が示しているシステム標準化の17業務については、糸魚川市では、一部の業務が既にシステム化されているのか、あるいは既に全ての業務がシステム化されているのか伺います。
- (3) また、現行システムで、クラウドサービスを利用している業務はあるのか伺います。
- (4) 業務効率化外部診断を委託していますが、その成果はどのようなものか。特に業務のデジタル化との関連が出てくるのかお尋ねします。
- (5) 行政のデジタル化の動きと併せ、押印の廃止に向けた動きがあります。報道によれば、新潟県では、国のマニュアルも踏まえ、2020年度内にも押印廃止の不可を整理し、21年度から廃止を目指す。押印の9割を廃止するようです。

そこでお尋ねしますが、当市では押印の廃止について、どのように考えているのか伺います。

- (6) 行政のデジタル化と密接な関係があるのが個人情報の保護です。政府では、全国的に行政情報をビッグデータとして活用しようとしています。2000個問題と言われるように、個人情報の保護については、各自治体でばらばらな現状があります。そこで総務省は、個人情報保護に関して全国共通のルールをつくらうとしているわけですが、現状、個人情報の保護と行政情報のデジタル化との関連について、どのような問題意識を持っているのかお尋ねします。
- (7) 次に、総務省が描いている標準化は、情報システムの標準化にとどまらず、様式や帳票の標準化、そして業務プロセスの標準化も含まれます。

したがって、標準システムを導入しようとする、業務プロセスを含めたこれまでの業務の進め方全体をつくり直すようなものだと思います。そのためには、標準システムへの移行に備えて、エンジニア的思考ができる人材が必要になるのではないかと思います。

一方、10月1日の東京証券取引所のシステムダウンは、いまだ記憶に新しいところですが、この事態に関する東京証券取引所の記者会見では、最高情報責任者C I Oである業務執行役員の方が、とにかくかみ砕いてマスコミに対して説明しておりました。大きなシステムになるほどシステムトラブルは起きるもの。ゼロリスクはないんだという前提で、システム管理に当たらなければなりません。

この際、デジタル化の本質が分かり、行政のデジタル化推進を統括しながら、併せて市役所内のシステムのデザイン、維持管理に当たる最高情報責任者・C I Oを設置すべきと考えますが、いかがでしょうか。

- (8) 一方、教育分野においてもデジタル化の急激な波が押し寄せております。

10月20日に文部科学省から「学校が保護者等に求める押印の見直し及び学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化の推進について」という通知が出ていますが、この通知への対応はどのようなになっているのか伺います。

3つ目、移住・定住促進策について、お尋ねします。

移住定住促進策については、様々な政策・事業が展開されています。

(1) まず、移住について見ますと、元年度の決算によれば、U I ターン家賃補助では新規 13 件、さらにU I ターン空き家改修補助では6 件ありました。件数としてはかなりの件数ではないかと思いますが、どのように評価しているか伺います。

(2) 次に、これら補助制度を利用したU I ターン者のうち、若い現役の世代の割合はどのくらいの割合なのかお尋ねします。

(3) 一方、これらU I ターン者への支援と比べて生まれ育った糸魚川で引き続き生計を得て住み続けたい。あるいは事情があって親とは別居して暮らしたい。こういった市外へ出ないで地元で働き続けたい若い人向けの住宅支援策、定住支援策は弱いのではないかと。そもそも今住んでいる人の満足度が上がらないと、移住に結びつかないのではないかと。こういった問題意識の下、雇用促進住宅を例に質問いたします。

① この雇用促進住宅の家賃については、U I ターン者とそれ以外の者では、大きな差があります。5 年目以降は、両者ともに同額になりますが、2 年目まではU I ターン者の家賃はほぼ半額です。三、四年目は4 分の3です。なぜこのような家賃設定になっているのかお尋ねします。

② 次に、いま一つは、家賃の減額が4 年間ということですが。なぜ減額期間、優遇期間が4 年間なのか、その理由をお尋ねします。

③ 次に、雇用促進住宅条例は、雇用促進住宅に入居できる者は、事務所もしくは事業所に「勤務している者」または勤務することが予定されている者となっております。

一方、U I ターン促進住宅支援事業補助金交付要綱では、補助対象は、新潟県内の事業所に「常用労働者」として就業している者、または個人事業を営んでいる者となっております。この勤務とか常用労働者には、パートやアルバイトなどは含まれないのか伺います。

④ さらに雇用促進住宅のU I ターン者の家賃の優遇は、4 年間続きます。しかし、U I ターン促進住宅支援事業補助金交付要綱によります家賃補助は、2 年間です。同じU I ターン者向けの優遇処置にもかかわらず、この差がどうして生じたのでしょうか、伺います。

(4) 次に、U I ターン促進空き家取得支援補助金というものがあります。元年度の実績を見ると、空き家改修は6 件ありましたが、空き家の取得はゼロ件でした。元年度だけではなく、過去3 カ年、ゼロ件でした。空き家取得に関する補助内容が、ニーズに合っていないのではないかと思いますが、この実績についてのどのように評価しているのか伺います。

(5) そもそも移住促進の目的は、定住人口を増やすことです。であるならば、引き続きふるさとに住み続けたいという、そういった若い世代をU I ターン者と同様に優遇し、市外へ流出させない住宅政策に力を入れるべきではないでしょうか。

市内では、毎年100 組以上の新しいカップルが誕生しています。このような新しいカップルをはじめとした若い世代への住宅支援を充実し、そのことにより定住人口を増やすべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

滝川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、国の特別定額給付金や各種G o T oの施策、また、市の補正予算による対応などにより、緩やかな回復傾向にあると認識しております。

2点目につきましては、新しい生活様式に対応するため事業内容の見直しやデジタル化など、新たな視点での取組が必要であると考えております。

3点目につきましては、新年度は新型コロナウイルス感染症から市民の生命、生活を守ることを第一に考え、安全・安心を重点施策のキーワードといたしました。

4点目につきましては、従業員の早期職場復帰と不安解消を図るため、P C R検査費用の助成を本定例会において提案をさせていただいております。

5点目につきましては、自助・共助・公助の考え方は、防災講座でも周知しており、それぞれがつながることにより、地域防災力が向上するものと考えております。

2番目の1点目、戸籍システムにつきましては、既に標準仕様書が作成されており、整合が取れております。

2点目と3点目につきましては、17業務全てについてシステム化並びにクラウド化をいたしております。

4点目につきましては、業務効率化診断では、I C T化できる業務を抽出する作業も行うことといたしております。

5点目につきましては、国が押印廃止のマニュアル作成を進めていますが、法令等で押印が定められているものを除き、廃止の方向で検討いたしております。

6点目につきましては、個人情報の保護は、行政のデジタル化を進めるに当たり、重要な課題であると捉えており、万全なセキュリティの構築とセキュリティポリシーの順守が大切であると考えております。

7点目につきましては、適切な組織体制や人員配置が必要であると認識しており、体制整備や人材育成に努めるとともに外部人材登用などを検討し、デジタル化の推進を図ってまいります。

8点目につきましては、校長会などを通じて事務の簡素化やデジタル化への移行について周知しており、学校現場と調整を図りながら推進してまいります。

3番目の1点目と2点目につきましては、家賃補助は全員40歳未満、空き家改修補助は3分の2が40歳までの利用となっており、若い世代の移住につながる取組として評価いたしております。

3点目の1つ目につきましては、平成25年に市が雇用支援機構から取得した際、独自にU I ターン者の確保に向けた利用に供するため、設定した家賃でございます。

2つ目につきましては、機構が管理していた当時から、減額期間は4年間でありました。

3つ目につきましては、パートタイム労働者を含んでおります。

4つ目につきましては、家賃補助制度に対する県補助金が2年間となっており、このスキームで運用してるものでございます。

4点目につきましては、若い世代のU I ターン者の傾向として、アパートなどの賃貸住宅を選ぶ傾向が高いものと認識しており、見直しをしております。

5点目につきましては、定住人を増やすには、若年層の確保が必要と捉えており、引き続き若者

が住み続けられる施策に取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

何点か再質問させていただきます。

今般新たな補正予算が提案されておりますけれども、既にこれまで8次にわたるコロナ対応の補正予算が組まれております。1人10万円の特別定額給付金、これ市内の場合、約42億円ですけれども、これを除きまして今回の補正を合わせますと、これ私の計算ですよ、ですから数字がちょっと間違っとなるかもしれませんので、これまで約11億5,000万、のコロナ対応としての予算措置がされたと思います。そのうち10分の10の地方創生臨時交付金、約9億4,400万ですから、今年度は今のところ自前の財源はそれほどダメージは受けてないのではないかなと思いますけれども、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

今般の新型コロナウイルス感染症対策に対応するために市が取り組んでいる事業につきましては、議員おっしゃいますように、かなり自由度の高い地方創生臨時交付金などで国の手厚い助成により対応できていると考えております。

しかし、財政的には市の持ち出しとしまして今8号補正までですが、予備費を含めると約予算ベースなんです、1億2,000万程度の持ち出しが出てきております。

また、今後に見込まれます税収の減や感染症への対応等につきまして、まだ今後の社会情勢、経済情勢などの対応が必要になると考えておりますので、現段階ではそうかもしれないんですが、財政への運営の影響につきましては、かなり懸念をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

ですから今までの自前の1億2,000万余りというのは、それほど大きなダメージはないんじゃないかなとは思いますが、今後、財源不足が見込まれるわけで、そういったことを考えると、相当な慎重運転で財政運営していかなくちゃいけないと、そういうことかと思えます。

もう一方、市内経済の行方なんですけれども、通達の中で8月に経済団体連絡協議会が行った調査では、企業の8割が先行きを不安視していると、そのようになっています。しかしながら、同月の市内の有効求人倍率は、県内で2番目に高い1.84なんです。先行きが不安視される中で、こ

のように求人倍率が高いということは、どうもそこに市内経済の構造的な課題、あるいは逆に経済活性化のヒントがあるのではないか。このギャップをどのようにお考えか、お答え願えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ハローワーク糸魚川と、毎月当初に定例で懇談、情報交換を行っているところでありますが、最新の10月末の時点での雇用情勢につきましては、有効求人倍率は1.6でありまして、前年同月が1.59でありますので、大きな変動は見られておらず、慢性的に求人倍率が高い状況で推移しているところであります。ハローワーク糸魚川では、新規求職者の動向から、現時点では新型コロナウイルス感染症の大きな影響は出ていないものと判断をしております。

ご指摘のギャップにつきましては、通常先行きが不透明であれば、求人を控え、有効求人倍率が下がる傾向となりますが、当市の状況につきましては、慢性的な人手不足となっているところであり、一時的な求人増もあります。コロナ禍で優秀な人材の地方への移転やコロナ離職者の採用を狙うとか、これをチャンスと捉えている企業もあるものと推測しておりまして、現に数名がコロナを理由にUターンをし、求職しているというお話もお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

先ほどの答弁の中で事業見直しの好機なんだと。新たな視点で取り組むんだと。慢性的に求人不足してる業種、あるいは企業があるわけですよね。そこに力を入れることによって、もう少し経済が膨らむ、大きくなる可能性があるんじゃないでしょうか。漫然とした求人という今表現だったと思いますけど、行政も漫然として何も手を打ってないんじゃないですか、その求人意欲の旺盛な業種、あるいは企業に対して。そこは手を打てば、このコロナ禍の中でもやっぱり元気な企業、元気な業種、可能性のある業種あるわけですから、そこを経済対策で打つべきなんじゃないかなと思いますけど、もう一度伺いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

産業別で新規の求人を比較いたしますと、減少しておるのが宿泊業、飲食・サービス業、あと生活関連サービス業、娯楽業、これが減少しております。逆に建設業、製造業、運輸、医療・福祉等で増加しておりますので、当市の産業構造、製造業、建設業が人材が不足している状況であるということで考えておりますので、これらをどうやって、糸魚川市の経済を回している大きなところをどうやって市内全体の経済に回していくと。その辺が重要になってくると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

このコロナ禍の中でもやっぱり元気な企業、やる気のある企業、業種があるわけですから、ぜひそこをどういった手だてができるのか、知恵を出していただきたいと思います。

先ほどの答弁の中で、コロナ禍は事業見直しの好機であると。新たな視点でもって臨みたいというお話だったんですけども、それをもう少し具体的に言うとどういうことなんでしょうかね。コロナ禍で委縮するんじゃないんだと。決して立ち止まらない。日々新しいことを目指すんだよと。そういう意気込みというふうに受け取ってもよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

コロナ禍と事業の見直しという視点でありますけども、確かに今コロナ禍の中で、新しい生活様式といった考え方が生まれております。その取組の中で、一つはデジタル化という考えが出てきております。今、国のほうでもデジタル庁の設置に向けていろいろ対策は打って行くでしょうけども、そのデジタル化の考えの中では、この機会にひとつライフスタイルですとか、働き方の見直しという、そういった社会のやっぱり変化だと捉えております。今、コロナ禍の中での新しい生活様式という観点に立って、新たな情報をまずしっかり集めることが大事だというふうに思っております。多くの情報を多く集めて、しっかり分析する中で事業を進めていくといった、そういった考え方で進めさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

今いみじくも新しい生活様式のことをおっしゃってたようですけども、新しい生活様式なんて誰も概念を整理してないんですよ。新しい生活様式って3密を避けることですよ。これは新しい生活様式ですよ。この間ずっと政府は言ってきたんですよ。だから、新しい生活様式がそこにあるわけじゃないんですよ。受け身に入るんじゃなくて、後段おっしゃってたように何かあるのかというのを探していく、だからそれが大事だと思うんです。デジタル化がひよっとしたら次の芽になるのかもしれないし、あるいは新しいライフスタイルというものが見い出されるのかもしれないんですけども、おっしゃるようにそこはどんどんリサーチしていただきたいと思いますけども。いずれにしろ発想をもう少しちょっと変えなければいけないのかなと。

ちょっと別の話します。先ほど安全・安心の話をしたんですけども、安全・安心をセットで語られるんですね。これ今の政府もそうなんです。安全・安心というセットで語る。これ安全と安心は別物なんですよ。で、どうしてかという、東日本大震災で、あれほどの大きな原発の事故があったんですけども、その原発事故後、ここで取れる作物は、何ミリデシベルですから、これは通常自然界にある放射線量と同じですから安全ですよ。ところが、消費者は買わないんですよ。風評被害

に結びついている。だから、幾ら科学者が安全ですよと言ったって、それが消費者の安心感につながらない。そういう経験を我々はしてるんですよ。

で、今回のコロナ禍に即していいますと、たまたま昨日発売の文藝春秋で神戸大学の岩田健太郎教授が書いてるんです。とかくの教授なんですけども、読みますね。

日本では、安全・安心という2つの言葉をセットで使うことが多いですが、外国では、安全は使っても安心はあまり使いません。安全とは、根拠に基づくものですが、安心は、気分の問題という違いがあります。つまり、何事にも根拠を求める外国人と違って、日本人は気分のよさを求める傾向があるのです。昔から日本人は、ロジックやデータというものを、そういったものよりも空気を重んじてきたんですよ。その空気で物事を決めてきたと。そういう国民性があったというふうに彼は言ってるんですけど、半分は正しいんでしょう。私もそう思う。

で、皆さんさっき新しいライフスタイルがあるんじゃないかと。あるいはデジタル化の次の波があるんじゃないかと。だからそこをリサーチしていかなきゃいけないと言ったときに、今までの日本人の国民性で物事を見てたんじゃないかと駄目なんですよと。情報を収集しようとするときに、もうこっちの自分の見方を変えないといけないという、そういう時代になった。我々はそれをコロナ禍から経験したと。そういうことだと私は思います。

ですから、ぜひ新しい事業にチャレンジするのも結構ですけども、自分自身をまず揺さぶって、今までの価値観をもう一回キャラにして、それから語らないとなかなか新しいニーズが琴線に触れてこないんじゃないかなと、そのように思います。

次の質問に行きますけど、ちょっと時間が追ってきたんですけども。

移住定住促進策についてお尋ねしますけども。私、先ほど雇用促進住宅の例を話しました。いろいろ前の機構から引き継いだ経緯があって、今の家賃設定になってるという話なんですけども。現場は、あれは5階建てのアパートなんですけどもエレベーターがないんです。屋上、私が見ましたら、ススキが3本生えていました。エレベーターもなく、屋上にはススキが生えてる、こういう雇用促進住宅ですよ。これが若い世代に対する優しさですか。若い人に住んでもらって、地元で住んでもらって、働いてもらおうとするときに、そんなアパートでいいでしょうか。ここに私は全然優しさがないんじゃないかと。エレベーターありませんから、5階まで上がるの大変ですよ。この本会議場は6階ですから、2階から上がった人どなたがおられますか。息はあはあ言って上がってきたでしょう、ここまで。だから、5階はもうあれは無料にするんですよ。何年住んでるかじゃなくて、階数に応じて家賃を定める。そういった手だてをしないと、せっかくの雇用促進住宅、これ浮かばれないと思いますけどもね、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

階に応じた家賃設定ということでございますが、それが実際可能な住宅と、そうでない住宅が市内にはございます。根拠のある法ですとか条例によるものでございまして、ご質問の雇用促進住宅は、階に応じた家賃設定やろうと思えばできる住宅のほうでございまして。

ただ、今時点でそのような検討というものはしておりませんでした。ススキの件は即対応させていただきますが、移住・定住とか、そういう政策における住宅施策としては今後勉強する必要があるのかなと思ってます。

ただ、ちなみに雇用促進住宅を含めまして、市が管理する集合住宅の傾向を見てみますと、防犯上の懸念があるのか、1階は比較的人気がない。雇用促進住宅も2、3、4あたりが人気があります。住宅選びの中には、両隣ですとか上下階が空いている、空いていないというところもやはりプライベートなことなのか、そういうのが判断材料になっておりますので、階が上がると安くなるというのと人気があるというのは、またちょっと違う尺度なのかなということは感じております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

私も行政経験が長かったですから、行政のしっぽを引きずってます。でも、先ほど言いましたようにコロナ禍を経験した我々というのは、発想を変えなきゃいけないんですよ。今までこうだったから、あるいは行政はこういう法規に縛られてるとかという、そこから1回抜け出さないと新しいものが出てこないんですよ。だから、その覚悟をこの予算編成通知が示したんじゃないんでしょうかね。私はそう受け止めたんですよ。だから、事業見直しというのは、それぐらいの大胆な発想を持って臨まないと、このポストコロナは生き残れない。単に人口が減りましたで終わっちゃうと。そういう時代が来るんじゃないかなと、そのように思っておりますけども。

出生率向上のためには、居住、住まいが一番大事なんですけども、どういった住まいの条件が必要かと言われますが、まず広さなんですけども2LDKあるいは3DK以上の規模が、まず必要だと、規模。次に、家賃負担率が10%以下の負担だと。そうすると、出生率が向上しますよという一つの考え方があります。これを雇用促進住宅に当てはめると、3DKで4万3,200円の月額家賃です。そうすると月収が43万2,000円以上必要になるんですよ、手取りで。市内の20代の勤労者で、現在43万2,000円以上の人っておりますか。いないと思いますね。

ですから、出生率を上げるためには、家賃を収入に見合った額まで下げる必要があるんですよ。皆さん家賃の負担率は、どれぐらいが適切かと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

今、議員のお尋ねの家賃負担率がどれぐらいが適切かというお尋ねであります。いろいろ調べてみたんですけども、10%だとかそういった具体的なものは、申し訳ありませんけども基準はなかなか見いだすことができませんでした。

ただ、確かに議員が今事例で示されたように若い世代の月収から考えると、家賃はそれは低ければ低いほど、それは本当に応援になるというふうには思っております。ただ、公営住宅につきまし

ては、家賃設定のほうも民間との整合性といったところもありますので、そういったところをしっかりと調査する中でどれぐらいがいいのかな、どのぐらいの負担率がいいのかと、地方によっても異なってくる場合もありますので、様々な要素を入れて、先ほど議員が言われたコロナ禍での意識を変えて、視点を変えるというご提言もいただいておりますので、そういった意味での住宅政策の観点から見ていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

先ほど、毎年新婚さん、新しいカップルが100組以上誕生してるんですね、市内で。みんながみんな親御さんと一緒に住むわけじゃないと思うんですよ。やっぱり別の所帯を持つ、そういう新婚さんがいらっしゃると思うんですよ。そういった人をもっとターゲットにすればいいんじゃないですかと。UIターンの実績もあります。ありますけども全国的に人口が減ってきているんですよ。どの自治体もUIターンをうちへ持ってこようとして努力してるんですね。そのマーケットって、レッドオーシャンなんですよ、レッドオーシャン。

ところが、ここに100組以上の新しいカップルがどんどん出てくるんですよ、毎年。ここブルーオーシャンなんですよ。ここへ手をつけてあげて、それで定住してもらって、さらにはお子さんをたくさん産んで育ててもらおう。まず、地元の若い人に優しい行政でないと、これまずいんじゃないでしょうかね。

どうして住宅政策が大事なのかという話もう少ししますけれども。市内の地価の、土地の価格の動きなんですけども、これ行政の資料にあったんですけども、大町2丁目は、過去10年間でマイナス40%地価下げてるんですよ。大町1丁目では、直近5年間でマイナス14%地価下げてるんですね。仮に、大町町内で土地を買い求めて家を建てたとします。ところが地価はどんどん下がっていくんですよ。ところが住宅ローン残ってるわけですよ。だから、自分が建てた家は資産じゃなくて負債になっちゃうんですよ。これが一つ。

もう一つ、上越市と比べてみます。地価なんですけれども、住宅地の平均価格、これ上越市の128%なんですよ。上越市より28%高いんですよ。

じゃあ所得はどうか。市町村民所得、上越市の85%なんです。上越市より15%低いんですよ。地価は28%高くて、所得は15%低いんですよ。これで若い人に家を建てて、若い人の夢を描けるかと。私は描けないと思う。

だから、取りあえず今日は、皆さんと課題を共有化すれば、私はそれでいいと思ってる。解決策はまた次の機会にやりたいと思いますけども。

だから、そういう住宅事情にあるわけですが、若い世代を取り囲んでる住宅事情が。ここを何とかしなければいけないかと思うんですけども、何とかしなければいけないと思いませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員の糸魚川、上越と比べると地価が高い。けども糸魚川でも近年、10年前から比べると地価が減少している。そのギャップのことを言われてるのかなというふうに思っております。糸魚川の地価が高いというのは、いろんな上越市と比べた地理的な条件もありますので、そこは糸魚川の特徴なのかなというふうに思いますけども。確かに若い世代が住宅を建てた。その資産価値が下がって、マイナスになるのではないかな。そのギャップが、誰が埋めるのかということになってくると思うんですけども、そういったところをしっかりと入れながら、今は子育て支援策というのも非常にやってまいりました。そのほかにも政策は取り組んでおりますので、いま一度こういった視点にせっきくのコロナ禍でありますので、もうじっくり状況をしっかりと把握する中で、何とか人口集積エリアを中心にして、何とか人が集まって、若い世代が集まる。そんな取組というのが進めていく必要があるんだなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。

○6番（滝川正義君）

子供さんが生まれた後の施策というのは、私、充実してると思うんですよ。幼児教育ですとか小学生、中学校、それは医療面も、それから保育料も、そういった面も含めて、それは充実してると思うんですよ。問題は、その手前の出産なんですよ。出産してもらうためには、まず若いカップルに住んでもらわなきゃいけないし、その人たちが出産しやすい住宅環境になければいけないんですよ、そこはひとつ理解いただいて、また今後、検討していただきたいと思っております。

ちょっと次のほうへ行きます。時間がなくなってきたんですけども。

先ほど行政のデジタル化で、私はやっぱり情報の最高情報責任者を設置すべきだという話をさせてもらったんですけども、どうも外部人材を活用してというお話なんですけども、責任能力というのは、やっぱりある人に置かないと、危機管理対応が非常に難しくなると思うんですよ。これあれなんですけど、ちょっと別の資料なんですけども、中央教育審議会の初等中等教育分科会がまとめた令和の日本型学校教育の構築を目指してといった報告書があるんですけども、このICT人材の確保の項では、教育委員会において外部人材の活用も含めてICTに関する専門性を有した人材の意思決定を伴う立場への配置を促進する必要性があると訴えています。だから意思決定、その教育委員会の中でも意思決定する立場に人を置かなきゃいけないよというふうに言ってるんですね。

ちょっと別の例を紹介しますね。今、新型コロナで、民間のシンクタンクが、まだコロナ禍のさなかななんですけども、調査報告書をまとめました。これは安倍前総理もインタビューに応じたりして、非常に今読んでもすごいいいレポートなんですけども。この中で、厚生労働省の幹部がこう言ってるんです。そういう体験、そういう体験というのは2009年の新型インフルエンザなんです。その新型インフルエンザの体験をしている人間と、していない人間は意思決定の速さにしろ、どういうことが起こり得るかという予知能力にしろ、他の人間に比べると相当差があると。

これはどういうことかということ、今何が起きているのか、そして、これから何が起きるのかとい

う判断は、そういう知見ですとか経験がない人には無理なんだと。だから情報システムに通じている人じゃないと、今何が起きてるのか、次は何が起きるのか、これが分からない。見えてこないんですよ。たまたま私、SARSの経験がありましたので、初期対応には、ある程度自分なりに考え方は整理できましたけども。ぜひ危機管理というのは、もうこれから本当に複雑な危機管理が求められますから、ぜひ情報、デジタルに通じた専門の人材を配置していただきたいと思います。

以上、要望で終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、滝川議員の質問が終わりました。

担当入替えのため15時20分まで暫時休憩といたします。

〈午後3時11分 休憩〉

〈午後3時20分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、子育て支援について。

(1) 不妊症・不育症治療の支援拡充について。

公明党は1998年以降、国や地方で保険適用を求めており、9月27日の公明党全国大会で菅首相が「公明党の皆さんから不妊治療の助成拡大や保険適用に強い要請を受けている。できるだけ早く保険適用ができるようにしたい。それまでの間は、助成金を思い切って拡大したい。」と挨拶している。市においても支援拡充の考えはあるか。

(2) 出産一時金の実態に合わせた対応について。

出産費用の全国平均額が、50万円を超えている報道があった。現行の42万円から50万円に増額する考えはあるか。

(3) 子ども誕生祝い事業の拡充について。

9月定例会で、コロナ対応として今年度に限り2万6,000円を増額し、5万円としたが、新年度より5万円とする考えはあるか。

(4) 特別定額給付金の対象外となった新生児への給付について。

新型コロナの第3波を受け、新生児の家族の精神的・経済的負担の軽減が必要と考える。

市内経済振興を考慮し、今年度に限り新生児1人につき、商品券7万4,000円を給付す

る考えはあるか。

## 2、糸魚川市公共施設等総合管理指針 個別計画（スポーツ施設）について。

### (1) 能生体育館について。

使用実績の伸びを考慮し、ギャラリーにおけるランニングで足や膝への負担軽減を行う、衝撃吸収材による修繕の考えはあるか。

### (2) 能生球場について。

① 能生中学校野球部の今年度の活躍や、施設の使用実績の伸びを考慮し、波打っている内野の修繕を行う考えはあるか。

② トイレの洋式化と手洗い場の改善を行う考えはあるか。

③ グラウンド外側の1塁側通路にひび割れと段差があり、転倒によるけがが心配されるが、改修の考えはあるか。

### (3) シーサイドバレースキー場の今後について。

① 昨シーズンは稼働日ゼロという前代未聞の年となった。それを踏まえて今後の展望について、思い切ったプランはあるのか。また、市と指定管理者では今後の取組について、考えは一致しているか。

② 借地代1,000万円を指定管理者の支払いとしているが、借地について市が買い取るか、直接借地代を支払う形にできないか。

③ キャラクター戦略で「ポケモン」等とコラボする考えはあるか。

## 3、生活弱者への支援拡充について。

### (1) 除雪、除草、買物、通院、制度利用等の支援拡充について。

① 超高齢化に備え、生活相談窓口を設置する考えはあるか。

② 異業種連携による生活支援会社（公社）の設立と、地域内通貨（商品券やデジタル通貨）を組み合わせた取組を検討する考えはあるか。

③ ドライブレコーダー設置補助等の制度周知や支援はあるか。

### (2) 広報・おしらせばんの配布方法について。

① デジタル派とペーパー派の希望調査を行う考えはあるか。

② デジタル派の方たちがホームページでの閲覧希望をした場合、費用は変わらないと考えるが、どのような課題や問題があるか。

### (3) 公共施設等のバリアフリー化について。

① 歩道等の段差解消の進捗状況は、どうなっているか。

② 公共施設の階段の手すりの有無や、安全性の点検を行っているか。

③ 車椅子用段差解消機や階段昇降機の設置基準は、どうなっているか。

### (4) 認知症による徘徊対策について。

① 徘徊センサーの周知や利用度は、どうなっているか。

② 2次元（QR）コードつきシールの導入の考えはあるか。

## 4、新型コロナウイルス感染症（第3波）対策について。

### (1) 医療機関の負担軽減策について。

① 市内で軽度感染者受入体制の強化や、施設の拡充はあるか。

- ② 市内宿泊業者との連携協定を拡大する考えはあるか。
  - ③ 自家発電機能と空調つきプレハブ等の導入の考えはあるか。
- (2) 飲食店や宿泊業者への支援について。
- ① 新しい飲食スタイルの支援への考えはあるか。
  - ② 異業種連携による新たな事業継続の支援策はあるか。
  - ③ フードバンクや食品ロスアプリ等の導入支援はあるか。
- (3) 動物愛護活動の支援について。
- ① 災害時の同行避難における、感染症対策の周知強化の考えはあるか。
  - ② 不妊・去勢手術や、譲渡会等の感染症対策の支援の考えはあるか。
- (4) 高齢者等のリモート生活への支援について。
- ① スマートフォンやタブレット等の普及講座や、使い勝手のよいアプリを紹介する説明会等を行う考えはあるか。
  - ② 携帯料金値下げに伴い、必要なサービスの取捨選択や料金設定等の相談窓口を、官民で設置する考えはあるか。

5、糸魚川駅北まちづくり戦略について。

- (1) 駅北エリア全体のW i - F i 環境整備について。
- 仕事、学習、遊びが自由にできる空間にする考えはあるか。
- (2) 分散型施設の役割について。
- ① 行政部門として駅北広場キターレ、駅北復興住宅、糸魚川地区公民館、公園、にぎわいの拠点施設（子育て支援機能）が受け持つ内容を、どのように決めるのか。
  - ② 民間部門として事業所、民家、空き家、空き店舗が受け持つ内容はどのように決めるのか。
  - ③ 道路や雁木部門として、人々がまち歩きするための仕掛けをどのように決めるのか。そのときの主体者は決めておくのか。
- (3) 市民自らが主体者となることへの動機づけについて。
- ① 「誰一人取り残さない」というSDG s の理念を置き、SDG s を実践するまちにする考えはあるか。
  - ② 人を集めるのではなく、人が勝手に集まる魅力を真剣に考え、実験証明するまちにする考えはあるか。
  - ③ デジタルとアナログの体験ができるまちにする考えはあるか。

6、産官学による新しい観光と魅力づくりについて。

- (1) 駅南（アルプス口）通りの活用について。
- 駅北エリア同様、駅南エリアを生かす考えや計画はあるか。
- (2) 鉄道を生かしたまちづくりについて。
- ① 「機関車トーマス号」で有名な大井川鐵道のように、乗りたくなる鉄道を目指し、思い切った取組を行う考えや計画はあるか。
  - ② 平成26年12月一般質問で、無人駅の活用について質問しているが、オフィスやカフェ、モノづくり工房にする考えはあるか。

(3) (仮称)「フォトフレーム写真コンテスト」の開催の考えはあるか。

それはオリジナルフォトフレームを制作し、それを使った写真や動画をSNSにアップしてもらい、目的は市の景色や情報の拡散であります。

(4) 能生地域の海洋系サテライトキャンパス化について。

能水商店、高校生レストラン、近大ノドグロ養殖、部活動等の実績を生かし、国・県を巻き込み、各種大学の関連施設の整備や学術協定を結び、積極的にキャンパス化する考えはあるか。

(5) 世界ジオパークの体験観光ビューローの創設について。

市の観光施設を一括管理して、スタッフの通年雇用をする考えはあるか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(中村 実君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、国で協議されており、国の動向を見ながら対応してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、国民健康保険において国が示す基準額で支給してまいります。

3点目と4点目につきましては、本年度、子ども誕生お祝い金事業を拡充いたしました。

2番目の1点目につきましては、体育館の床材と同等の衝撃吸収材を使用いたしております。

2点目につきましては、状況に応じて必要な修繕等を順次行ってまいります。

3点目の1つ目につきましては、ふだんから指定管理者と協議を行っているところであり、スノーシーズンの営業に向け、レンタルスキーとスノースクールの補助を拡充し、家族で気軽に利用できるスキー場として誘客に努めてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、株式会社シーサイドバレーが会社設立の際、借地契約を受け継いでいるものでありますが、市との契約にすることが望ましいと考えており、協議を進めております。

3つ目につきましては、スキー場に限らずキャラクターの活用は誘客に有効であると考えており、今後も研究してまいります。

3番目の1点目の1つ目につきましては、地域包括支援センターが相談業務を担っております。

2つ目につきましては、現在のところ取り組む予定はありません。

3つ目につきましては、おしらせばんに掲載するとともに、引き続き市のホームページへの掲載や事業者への周知を行ってまいります。

2点目の1つ目につきましては、今後必要に応じて実施の検討を行ってまいります。

2つ目につきましては、デジタルでの閲覧も可能となっておりますが、配付方法などの課題があると考えております。

3点目につきましては、障害者団体や推進協議会の意見を聞いて、危険度や緊急性を考慮の上、対応を進めております。

また、バリアフリー法や県・福祉のまちづくり条例により、用途や規模により設置基準が設けら

れております。

4点目の1つ目につきましては、地域包括支援センター等が周知を行っており、事業開始から延べ7人、現在3名の方が利用されております。

2つ目につきましては、認知症の方やその家族が利用しやすく、効果的な見守り方法を研究してまいります。

4番目の1点目につきましては、県において病床、宿泊療養施設ともに確保されていることから、いずれも現段階では拡充・導入の考えはないと伺っております。

2点目につきましては、今後の状況に応じて対応を検討してまいります。

3点目につきましては、感染症対策についての情報を提供するなど支援を行ってまいります。

4点目につきましては、国において来年度から携帯電話販売店などにデジタル活用支援員を配置することから、当市も民間事業者と連携し、情報格差の解消に努めてまいります。

5番目の1点目につきましては、民間と連携して整備拡充に努めてまいります。

2点目の1つ目と2つ目につきましては、まちづくりや地域交流コミュニティづくり、公的サービスの提供など、駅北エリアにおいて必要とされる施設を運用も含めた公民連携の中で、空き家活用や施設整備を進めてまいります。

3つ目につきましては、利活用は公民連携で進めるものと考えております。

3点目の1つ目につきましては、駅北エリアだけではなく、市全体としてSDGsの理念を意識し、官民ともに取り組んでいく必要があると考えております。

2つ目と3つ目につきましては、多様な人々が主体的に様々な取組にチャレンジすることにより、まちの魅力を高め、自然と人々が集まるまちづくりを進めていく必要があると考えております。

6番目の1点目につきましては、現時点では具体的な計画はございませんが、駅南エリアは駅周辺としての魅力づくりも必要なエリアと捉えております。

2点目につきましては、鉄道に乗ることが目的となるような取組について、地域や鉄道事業者と検討していきたいと考えております。

3点目につきましては、近年、写真や動画によるSNSを活用したプロモーションが多く行われていることから、情報発信ツールの一つとして検討してまいります。

4点目につきましては、簡単ではありませんが、大学等のサテライトキャンパス誘致につなげたいと考えて、取り組んでまいります。

5点目につきましては、現在、観光協会が窓口となり、観光、体験、宿泊施設など関係者と連携しながら情報発信や受入れ等を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

それでは、2回目の質問よろしくお願いいたします。

まず1番の（1）不妊症・不育症治療の支援拡充についてであります。

今ほども国の動きに合わせた形で市も対応されるということなのですが、ただ、国の制度が確立するまでに少し時間がかかるかなと思っておりまして、その間もできれば市のほうで少し拡充をしていただければなという思いで今回質問してるんですが、その辺具体的な対応とかできるものでしょうか、いかがなもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市長答弁のとおり、国では助成金拡充、また保険適用などが今議論されていて、来年から助成金が拡充されるというような見込みだということを知っております。妊娠を望む方が、望みをかなえられるように支援していくというのが当然のことだと思っております。現段階では具体的なことは申し上げられませんが、市として何ができるか検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

次に、（2）の出産一時金の実態に合わせた対応についてであります。

ちょっと金額を調べますと、国民健康保険中央会の妊婦合計負担額の平均値では、平成28年度の新潟県は49万6,624円で、ちなみに27年度は48万9,325円、このときはまだ50万を超えてないということですが、全国平均を見ますと平成28年度が50万5,759円、平成27年度が49万9,615円となっております。いかにも50万円とするのが妥当なラインだというふうに思っております。

これにつきましても、先ほど国の動きということだったんですが、これについても市独自で対応するということなく、それを待つという形でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどの出産一時金、これについて市の裁量でどうこうできるというのは、国民健康保険だというふうに認識しております。今のところは国が示す基準額42万円で、今後についても国が示す基準額で継続したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

だからというわけではないんですが、今度（3）番の子ども誕生祝い事業の拡充についてであります。

これも今年度に関しては、既にもう5万円の対応をされてるということなんですけども、今後やはり今のお子さんを産む環境だとか、先ほど滝川議員のほうからも出産というのがまちづくりの上でも基盤になることだということもおっしゃっていたんで、そういった意味も含めて糸魚川市としてはゼロ歳から18歳、また子育て日本一という目標を掲げてやっとするわけなんで、財政的には厳しいのは重々分かっておるんですが、それぐらいここにお金をかけていくんだというそういう思いで5万円にしていってらどうかということなんですけども、再度、担当課で、もしできない理由があるのであればその辺もうちょっと詳しく説明をいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

おっしゃるとおり国が定額給付金の基準日を4月27日までというふうなことで設けたために、28日以降対象外となるケースの方については、お祝い事業の拡充によって今対応しているところであります。来年度の継続については、今現在、検討をしているところでご理解いただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

検討していただけるということで、少し前にずったかなというふうに思っております。

次、（4）番でございます。特別定額給付金の対象外となった新生児への給付についてであります。

これは今回7万4,000円とさせていただいたのが、本来であれば1人10万円の形で言えば分かりやすいんですが、今回、糸魚川市は先んじて2万6,000円分、しかも地域経済のことを考えて商品券ということで対応していただいております。そこをちょうど引いて7万4,000円ということで、しかもこれも地域経済のことを考えれば、やはり商品券のほうがよろしいかなということで、あえて提案させていただいたんですが、このコロナ禍の大変な中、誕生してくださったお子さん、また、その家族のことを考えると、やっぱり私はこの第3波という流れが来たときに、これはやっぱり手厚く迎え入れてあげなきゃいけないんじゃないかなと、つくづく思っているんですよ。さらに今、G o T oキャンペーンだとかいろいろございますが、この第3波の流れ、今、毎日毎日ニュースでは、過去最高の感染者数が出たとか、重篤者、重症者が出たとかという話を聞いてますと、そういう中で生まれてきてくださった子供、またその家族というものをもうちょっと暖かく支援してあげてもいいんじゃないかと思うんですが、いま一度、それもできない理由があるのであればはっきりと言っていたいただければと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃる7万4,000円の追加給付については、今のところ考えておりません。

ただ、今ほどおっしゃる第3波と言われているような状況にあって、今も声を聞いておりますが、妊娠届や出生届の際に子育て世代の声を聞く中で、適時適切な支援はしていかなければいけないと考えております。そういった声を聞く中では、具体的には里帰り出産ができなくなって不安だというような方もいらっしゃるって、産前産後サポート事業を提案したというような例もございます。そういったところ含めて検討していかなければいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

直接は関係ないんですが、全国の今回のボーナスの額もちょうど10万円ぐらいなんか減額したとかというニュースもございますので、私、諦めてないもんですから、もう少しまた検討に検討を重ねていただければなど、これは要望にしときます。よろしく願いいたします。

次、大きい2番行きます。糸魚川市公共施設等総合管理指針のスポーツ施設についてであります。

能生体育館のほうは、今ほどちょっと私、聞き漏らしたんですが、ギャラリーの衝撃吸収材がもう既にあるような答弁だったかなと思うんですが、それは間違いないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

先ほど市長の答弁でもございましたように体育館の床材と同等の吸収材を使用しているということで、体育館につきましては、工業規格で基準が定められておりまして、その推奨値の内ということで、なっておりますことから、このまま、そのままの状態で使用していただきたいというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

何で能生体育館にという声を上げたかといいますのは、能生地域は陸協ですがあつたり、県縦断駅伝だとか、あといろんな相撲もそうですし、スポーツに非常に今力入れております。

ただ、けがをされるとせっかくのそういった成果が出なくなるという心配もあったので、あえて今回は、ギャラリーの修繕ということを上げさせてもらいました。間違いがなければ、それで大丈夫だと言うのであれば、私はそれで結構かと思いますが、とにかくけがをされないように頑張っていたきたいなど。

次、（2）能生球場についてであります。

能生中学校では、野球部が昨年、オンヨネカップ新潟県大会で準優勝をして、市長のほうにも報告が上がったというふうに聞いておりますし、また、今年もベスト8まで同大会で行ってると。野球が、人数は少なくなってきたんですけど、一生懸命頑張ってる。

ただ、内野のグラウンド整備だとかすごく時間がかかるというのと、レフト側ですかね。何に雨が降ったりすると水はけが悪くて、ちょっとたまって、水抜き作業が結構時間かかるかというふうに聞いております。

そういったところは、グラウンドの造りを私、詳しくは分かりませんが、ある程度、土を取ってあげて、また新しい土を入れて整備できるのであれば、ちょっと早急にやってあげてほしいなと思うんですが、その辺は技術的・金銭的にそんなにかかるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

技術的にはと申しますと、下に例えば水がたまるのを排水する施設ですとかそういうものを入れないと、根本的な問題の解決にはならないと思っております。そこにつきましては、多額の費用がかかるということでもなかなか難しいのかなということと、能生の球場につきましては、施設の管理運営指針によりまして、現在の機能を維持・保全するという形の施設の一つとなっておりますことから、定期的な土等の入替え等は考えさせていただいておりますが、根本的な解決をするというような工事のことについては、今のところ考えておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

そうなんです。だから、この指針には能生球場の改修だとか抜本的なものがないんですよ。だから、今使っているから、そこを急場しのぎじゃないですけども、そういう意味で直してほしいという、そういう理屈なんです。計画ないでしょう、だってここには、出てないんですよ。だから言ってるんです。その辺もう一度考えてもらいたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

そのところにつきましては、市長答弁でもございましたように、状況に応じて土・砂等を入れ替えたり、少しずつといたしますか保全ができるように対応してまいりたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

次のトイレの洋式化もそうですし、グラウンドの外側の通路もそうなんですが、そんなにお金かからないと思うし、今一生懸命練習している子供たちのこととか考えると、今すぐやってあげることが、私はベターだと思っています。だから、お金のこととかいろいろあるでしょうけども、ぜひ前向きに検討していただきたい。また、本当に地域の声も聞いていった上での対応でよろしいかと思うんですが、その辺また地元の使ってる方の声を聞きながら相談に乗ってあげていただきたいんですけど、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

実際、使用している施設でございます。利用に支障のないように必要最低限の修繕・整備はしていきたいというふうに思います。

また、野球関係者等の意見は、当然伺いながら進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ最低限であっても少しでも環境整備、よろしく願いいたします。

次に、（3）シーサイドバレースキー場の今後についてであります。

時間もあれなんですけど、シーサイドバレースキー場は、本当に昨年度はゼロ稼働ということで、私もびっくりはしました。

それで、ちょっとうがった見方になるかもしれませんが、糸魚川市の全体感で物を考えると、スキー場というのは雪が降って、やっと稼働する施設であります。除雪という問題もあって、除雪は雪が降らなければ、そんなにお金、待機料といろいろかかるんですけど、稼働しなければそれほどかからない。糸魚川市という雪国の自治体として、このスキー場と除雪費というものを見比べた関係の中でスキー場というのはお金かかるという見られ方もしますけども、雪国だからこそできる施設でもあるわけですから、そういったちょっとトータルで物事を見ながら、除雪も大事、スキー場も大事という形で、今後はスキー場の在り方も考えてもらいたいんですね。ちょっとお客さんが入らないから、もう要らないわと1回潰してしまうと、もう二度と造ることができないと私思っております。

ただ、その代わり、さっきの借地代、もし1,000万円が会社の負担でなるとなるとやりにくいということであれば、そこはしっかり面倒見るよと。その代わり会社としていろんな面白い取組をやってもらって、元気のあるところを見せてくれといった、そういう考えを一致させた動きをぜひしてもらいたんですけども、そういうちょっと大ざっぱな話をしてるんですが、その辺の考え方、方

向性についてはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員おっしゃるとおり、スキー場の営業と除雪の経費につきましては、相反するような感じになっております。市内のスキー場につきましては、交流人口の増大を図り、地域振興及び地場産業の振興、並びに市民の健康増進、体育の向上に寄与するべく設置しとるものでありまして、それらのバランスを取りながら進めていく必要があるというふうに思っております。

ただ、シーサイドバレースキー場につきましては、ファミリー層のスキー場の誘客はもとより、暖冬小雪が続いておりますので、それ以外で数年で入込客を確保することが課題となっております。これまでもバイクのイベントですとか、パラグライダー、キャンプ、キャンプ場、バギーコースなどのアクティビティの充実に向けて取り組んでるところでありまして、ホワイトクリフにつきましても、新たな取組として教育旅行ですとかワーケーションなどの活用方法についても、模索をしているところであります。

また、借地部分につきましても、本来、市との契約にすることが望ましいと考えておりますが、相手方のある話でもありますので、その辺は慎重に進める必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

そこで、さっきの私の発言だと、何かスキー場が頑張っていないみたいにもし受け止められたらちょっと心外なので、非常に頑張っていると思っております。

ただ、これまでのやり方を踏襲したやり方で来ているものですから、単純に利用者が減れば、売上げも減るといふ、ただその平行線であって来てるかと思えます。

そこで、今回は邪道って、自治体がやると邪道って言われるかもしれませんが、あえてそのキャラクター戦略というものを言わせていただいた理由は、ポケモンといっても、私の中ではポケモンの中でピカチュウというキャラクターがあるんですけども、横浜市ですか、ピカチュウ大量発生というイベントがございまして、大きな着ぐるみのピカチュウが何百体かな、行列で歩くようなイベントがあるんです。

何でそんなことを言うかという、スキー場だけの魅力でお客さんを集めるのではなくて、こういったキャラクター、今日は田原議員のほうでも宝石の国の話をされました。ジオパークですからね、宝石の国のキャラクターが使えるのであれば、それも全然オーケーなんですけども。そういった子供、もしくはキャラクターが好きな人も、このスキー場へ来て楽しめる。もっと大事なのが、通年で楽しめるエリア、そういったコンセプトでこのスキー場を盛り上げていく。いや著作権高いからもうからないんだ。もうからなくて結構だと思います。とんとんでいいと思います。そういったところを綿密に計算し、そのキャラクターの会社と本当にじっくり話し込んでいただいて。

ついこないだも小千谷市のほうでポケモンのマンホール蓋を設置する、ポケ蓋というんですけど

も。以前、私もこの場で提案させていただいたものですが、あれだけでもテレビが報道をかけてくれて、あれはゲームの中ではポケストップとあって、あそこに行くとモンスターが出てきて、ゲームで捕れるんですけども。

そういったいろんな仕組みを駆使して、シーサイドバレースキー場、名前変えてもいいと思いますよ、ポケモンスキー場でもいいと思います。それぐらいのことをして、やっぱり利用者を増やすというところに食欲にやってもらいたいんですよ。今のままだと駄目なの、みんな多分分かってると思うんですよ。その大きな変化をこの機会にぜひチャレンジしていただきたいんですね。そのための指定管理者という自治体と離れた方が経営するわけですから。でも後方支援は、もう自治体でどんどんやってもらって、安心して使ってもらえる施設にすべきだと思うんですよ。そのくらいちょっと考えていただきたいんですが。話が大き過ぎますかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ご提言のとおり、キャラクター戦略はファンの層も広くて有効な誘客手段の一つだというふうに考えております。今言われたポケ蓋につきましても、会社にアプローチはしましたが、今新規の申込みがストップしとるということで、受付の再開を待っているところであります。

また、ポケモンGoにつきましても、市内の2つのスキー場ともポケストップとして登録されるということでもありまして、今後とも今ご提言いただいた部分も含めまして、キャラクターの活用について誘客に結びつくように研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ほかのスキー場では、コスプレ大会とかとあって、アニメのキャラクターで来て、ゲレンデを滑ったりするとかという企画をやっているところもあるみたいですけど、御風さんでもいいですし、ジオまるはちょっとスキーは大変かなとは思いますが、ちょっとそういうそりでもいいと思うんですが、何かそういう遊び心のある日を設定していただいて、まず試験的にそういったもので子供たちが来てくれるかどうか、そういったところも探っていただきたいと思います。これは要望にしまするので、ぜひご検討ください。

次、大きな3番行きます。生活弱者の支援拡充であります。

私、今回、何で除雪とか除草とか買物、通院、制度利用というのを上げたかといいますと、書いてあるので、超高齢化に備えてそういった窓口がワンストップでできるんだよというふうにしていただきたいんですね。特に高齢者の方は、今この除雪であるとか除草についてすごく不安を持っております。そういった対応、先ほどは一括包括センターでしたか対応するというんですけど、具体的には、結局は市役所の窓口で対応するという形でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

先ほど市長が申しあげましたものにつきましては、市内に5つあります地域包括支援センター、こちらのほうで高齢者の相談を受け付けるというものであります。今ほど議員おっしゃいます除雪であるとか除草につきましては、個別の課題でありながら地域全体の課題として捉えてる部分もあります。そういった中で現在、糸魚川市では、地域で助け合う、支え合う、推進事業も実施しておりますので、そういった仕組みをさらに進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

そこで②番のほうに行くんですけど、私、ここ異業種というふうに書いてしまっちゃったんですけども、生活支援会社という公社みたいなものができて、地域内で商品券やデジタル通貨で高齢者の方、また生活弱者の方を支えるような仕組みができないかなと思ったのは、例えば気持ちがあつて、高校生とか中学生でも何かお手伝いできることがあるかなとか、何かそういうものにお金となるとなかなか難しいんですけど、地域内通貨というんですかね、そういったものを導入して、そういう先ほどの看護とか介護とかという仕事にもつながるんですけども、そういう機会を何かシステム化してもらって、ちゃんと大人が管理する中で子供たちや高校生、大学生がそういったお手伝いができるような仕組みができないかなと思ったんですが、そういったことって過去に検討したことがあるのか。また、そういう可能性みたいなものを研究する余地があるのか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この件につきましては、これまで議論したかどうかというのはちょっと承知しておりませんが、今後、今デジタル社会になってきておりますんで、キャッシュレス対応とかでいろんな観点から、こういう地域限定通貨等の取組も考えられるのではないかというふうに思っておりますので、また今後の研究課題として捉えさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ研究してみてください。大規模にはできないかもしれませんが、その地域とかスポット的にそういった地域内通貨でボランティア的なアルバイトみたいな形が可能かと思っておりますので、研究してください。

あと除草についてなんですけども、こないだ少しテレビを見てますと、生きてるヤギを使って除

草するという、レンタル1日か1カ月か5,000円で、お水と塩を与えて、休憩する小屋を用意すれば、傾斜地とかの草を食んでくれるという、面白いなと思ったんですが、そういったところが農福連携事業でヤギさんを飼って、高齢者のいる周辺に少し散歩させて草を食んでもらう。

ただ、難点もあるらしくて、ふんの臭いだとかそういった問題もあるらしいんですが、ちょっとこういうところも研究して、それが地域の名物になれば私いいかなとは思ってるんですが、そういった発想とかというのを取り入れることは、また、民間とちょっと研究してみる余地というのはあるものなんでしょうか、いかがですか。現にそういうレンタルでやってるそうです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今、ヤギを飼って、そのヤギによって草を処分する。それが高齢者の生活支援とか、そういう観点とは若干ずれるんですが、同様な検討を市長のほうからもするようにということは承っておるんですが、なかなか指示はいただいておりますので、ちゃんと仕事としてやっていかなきゃいけないんですけど、今まだちょっと進んでいないというような現状でございます。すみません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

個人的には、市長と考えが一緒というのは嬉しいんですけども。ぜひぜひ研究していただければなど。

もう一つ理由があって、今、脱炭素社会ということで、やはりエンジンとかそういうものではなくて、脱炭素社会ということでそういったものにも加味できるのかなということもありますので、ぜひそういった角度からもSDGsであるとかそういうところにも通じるので、ぜひご検討いただきたいなと思います。

次に、買物についてでありますけども、糸魚川市自体、買物の移動販売とかに支援していただけてるんですが、ネット販売とかオンラインで買物する方式とか、こういったものを生活弱者の方に紹介するとか、配達してもらえるよとかと、こういう取組というのはやってるものなんでしょうか。あくまでも移動販売のみなものでしょうか。

なぜかという、やはり生活弱者とか高齢者の方、こういうものを扱う手前で心配をしてしまうというか。そこをやっぱり会社であるとか行政がちゃんと中継ぎをしてやって、本当に天気の良いときなんかは、こういうの頼んだほうがいいんだよというぐらいの、そういうサービスとか相談相手というか、なってもらったら、コロナ禍でもありますからね、むやみに出歩いてって感染するよりは、こういったものを利用するというタイミング的によろしいかと思うんですが、そういったのを官民連携でちょっとやっていただきたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

高齢者がインターネット等を使いました買物等につきましては、これまで特別導入した事例はございません。

その一方で、高齢者であれば重い荷物が持てないとか、例えば遠くまで車がなくていけないといった場合に、配達をしてくれる店のリスト、そういったものを過去に糸魚川市としまして作成いたしまして、各世帯に配付したといったような事例があります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ちょっと時間の関係があって、少し途中飛ばします。

（４）の認知症による徘徊対策についてであります。徘徊センサーのほうは、導入していただいて、利用もあるということで確認できました。この２次元QRコードつきシールというがございまして、要は無料でやってるところもありますし、有料でやってるところもあるんですが、要はQRコードをどこかかばんでも服でも何かこう貼って、どこか行方不明になったときにスマートフォンでそれをかざすと、住所というか相手先の情報が分かるというもので、即連絡が入って保護できるというものなんです。市内まだ取組していないかなと思ったので、そんなにお金もかからないのかなと思ってまして、その辺ちょっと導入を検討していただきたいんですが、再度担当課のほうでご回答いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回ご質問いただきまして、こちらの２次元バーコードにつきまして改めて調べさせていただきました。帽子であるとか、つえであるとか、服であるとか、そういうところに縫いつけるような形で、既に導入しております徘徊センサーとはまた違ったメリット等があるのかなというように感じております。

そういった中でも、例えば徘徊している方が、そのバーコードが何なんだろうかといったことを周知をするということも一つの課題であるのかなと思っておりますし、費用面につきましても、それぞれ全国的にも導入してる自治体がありますので、そういった他の自治体の導入事例を研究しながら調査してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

すみません、あと3分ちょっとなんで、全部飛ばして最後の、すみません、最後の番号6番の産官学による新しい観光の魅力で、しかもそのまた最後のほうで、（4）番の能生地域の海洋系サテライトキャンパス化についてであります。

いろいろ難しい課題は分かっているんですが、やっぱり今、海洋高校のいろんな連携、また、市長もいろんなところに交渉していただいて、大学連携とか、本当に私は順調に築いてきていただいているなと思っております。

で、ここが勝負どころで、やはり糸魚川市に学生なり、また教授陣なりが来てもらう、そういうエリア。新幹線の駅もあって、いろんな自然環境があって、フィールドワークもできる環境も整っているということで、ぜひここは、もう一步積極的に地域を活性化させるためにも何か施設、また、協定もたくさんつくっていただいて。とにかく年中通して誰か彼か関係者が、この能生地域で教鞭を執っていると、学生が来て、町なかを歩いているいろんな勉強をしているとか、そういった風景を描きながら取り組んでいただきたいんですけども、素材はほとんどそろってるかなと、私は勝手に思っております。後は人間力というか、こちらのやる気を示していけば、島根県の海士町ですか、ああいった成功事例になるかと思っておりますので、ぜひ力強く、コロナではありますけども、ひるむことなく、この推進をぜひやっていただきたい。また、このオンライン等でやはりそういった授業もできるわけですから、ぜひその辺もパイプを太くしていただきたいんですけども、お願いになるんですけども、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のように非常に、高校までは当市にございます。しかし、やはり大学というのは、これは保坂議員のみならずいろんな議員から指摘いただいてとるわけでありまして、市民の皆様からもやっぱり切望されておる教育施設だろうと思っております。そういう中で、今、非常にいろんな大学と連携をさせていただいたり、今いろんな高校、交換授業などもいろいろさせていただいておる部分があります。そういうことを考えたときに、やはり本当にキャンパスは必要な中で、いま一つやはり一押ししなくちゃいけないところに来てると、私も感じております。

そんなことで、やはりそういったところをどこのキャンパスになるのか分かりませんが、やはり特化して、その特徴を、また、そういった特徴のあるというのをもうちょっと光らせていきたいと思っておりますので、この厳しい環境ではありますけども、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

続きまして、その下の（5）番の世界ジオパーク、体験観光ビューローと勝手に名前をつけてますけど、創設です。

これは何が言いたいかというと、糸魚川市にある観光施設等、レジャー施設全部なんですけど、今いろんな各指定管理になって、ばらばらで管理してるんですけども、私はもうそろそろ一括管理で通年雇用できるようなスタッフ、で、若い人にどんどん入ってきてもらって、インストラクターやってもらい、ガイドをやってもらい、また、子供たちの相手になってあげたりするような、そういった構想を持って、少しちょっと考えてもらいたいんですね。そういったものがあれば、先ほどの大学連携のときの学生に来てもらったときの、そういうフィールドワークのときにも一緒にやってもらうとか、キャリアを上げてもらうとか、そういう考え方があるものですから、単なる観光というばかりではなく、やっぱり子供たちを受け入れていく環境づくりとしてもこういった、うまく言えないんですけども、ここは観光ビューローという言い方してますけども、そういった一括で市内の施設を管理していく人材も育てていくという面もあるので、そういったところをぜひ検討していただきたいんですが、これも何か形を変えていかないと、今までどおりだと今までどおりのじり貧になっていくかなと思いますので、ぜひちょっと検討していただきたいんですが、その辺考えいかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

全国では、この観光ビューローですとか、様々な形で観光施設の管理を行っているケースが存在しております。現在当市では、観光協会が窓口となって、一元的な対応を行っているところでありますけども、このスタッフの通年雇用に当たりましては、一定の事業規模等が必要でありますので、今後の検討課題とさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

苦言なんですけども、じり貧になって、全部なくなってからではどうしようもないんで、今がチャンスかと思っておりますので、ぜひ研究をよろしくお願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後4時13分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員